早 稲 田 大 学

産 業 経 営 研 究 所

所　　報

No. 60

Research Institute of Business Administration,

Waseda University

２０２０年度

目　　次

1. 研究分科会

１）研究分科会一覧 …… 1

２）２０２０年度設置　分科会　研究報告 …… 6

2. 事業活動 …… 39

3. 役職者・運営委員・助手 …… 44

4. 商学学術院・産業経営研究所構成図 …… 45

5. 『産業経営』投稿規定・執筆要領 …… 47

１．研究分科会

１）研究分科会一覧

2020 年度設置分科会

※印は分科会主任者、△印は２分科会以上参加者

☆印は兼任研究員、◎印は招聘研究員、○印は研究協力員

整理番号	テーマ・構成員	
2020-01	テーマ	広告とマーケティングにおける価値創造への多面的アプローチ Multifaceted Approaches to Value Creation in Advertising and Marketing
	☆	※武井　寿　恩藏　直人　嶋村　和恵 守口　剛　フランク・ビョーン
	◎	秋本　昌士　石崎　徹　石田　大典 大平　進　田部　渓哉　芳賀　康浩 朴　正洙　広瀬　盛一　八ッ橋治郎 峯尾　圭
2020-02	テーマ	「一帯一路」構想と異文化接触をめぐる研究 A study on Cross-cultural contact in “One Belt, One Road” project
	☆	※小川　利康　荒井　訓　尹　景春 宇野　和夫　原口　厚　パルヴューレスコ・M・M 矢内　義顯　△李　洪茂　國府　久郎 中村みどり　森本　栄晴　クラウス　マヌエル P
	◎	△井上　葉子　△今井　利絵　川邉　信雄 白石　徹　△鈴木　岩行　鈴木　航 竹之内玲子　田代　祐基　△張　艶 櫨山　健介　李　雪
2020-03	テーマ	技術革新、自然・社会環境の変化が保険ビジネス及び保険制度に与える影響と課題 How the innovation of technology and the change of the natural and social environment affect the business and system of insurance?
	☆	※中出　哲　田口　尚志　△李　洪茂
	◎	恩藏　三穂　△鈴木　岩行　土田　武史 椿　弘次　安井　敏晃　佐々木博之

2020-04	テーマ	民法・会社法の改正が企業活動に及ぼす影響と法的課題 Recent Reforms of the Civil Code and the Companies Act in Japan and their possible influences on trading and management of business corporations
	☆	※中村　信男　　和田　宗久　　川島いづみ 新井　　剛
	◎	李　　艶紅
2020-05	テーマ	４次元空間内の曲面の研究 Study on Surfaces in 4-spaces
	☆	※安原　　晃　　坂野　慎哉　　沢田　　賢 辻内　宣博　　渡邊　展也　　谷山　公規
	◎	田中　心
2020-06	テーマ	日本・世界のコーポレートガバナンスと金融・労働市場 Corporate Governance and Financial / Labor Markets
	☆	※広田　真一　　△久保　克行　　谷川　寧彦 宮島　英昭　　尾崎　祐介　　宇野　　淳 鈴木　一功　　蟻川　靖浩　　小倉　義明 河村　耕平　　五島　圭一
	◎	小川　　亮　　折原　正訓　　外松　陽子
	○	ｸﾞｴﾝﾃｨﾝﾌｫﾝﾀﾝ　吉田　賢一　　飯野　佳亮
2020-07	テーマ	英語による発信力を強化する体系的プログラムの開発 Development of a Systematic Training Program for Improving Productive Proficiency in English
	☆	※森田　　彰　　浅利　庸子　　エルウッド・ケイト 小澤　悦夫　　鈴木　利彦　　山田　　茂 篠原　靖明
	◎	青田　庄真　　岩﨑　永一　　江連　敏和 大本　道央　　小倉　雅明　　篠田　義明 神保　尚武　　原田　慎一　　藤本　淳史 室谷　章子　　本橋　朋子　　森谷　祥子 渡辺　洋一

2020-08	テーマ	管理会計におけるリスク分担機能の研究 The study on risk sharing functionalities of managerial accounting
	☆	※鈴木　孝則　伊藤　嘉博　大鹿　智基 河　榮徳　長谷川惠一　清水　孝 ダニエル・ドーラン　薄井　彰　清水　信匡 葛山　康典　町田　遼太　目時　壮浩
	◎	阿部　圭司　石塚　博司　稲葉　喜子 内野　里美　海老原　崇　大川内隆朗 庵谷　治男　大塚　宗春　奥本　英樹 金子　良太　神山　直規　河路　武志 小林　啓孝　齋藤　正章　佐藤　紘光 須藤　時男　高橋　克幸　辻　正雄 成岡　浩一　西澤　脩　野坂　和夫 花村　信也　潘　健民　福島　隆 堀　好一　前野　譲二　松田　修一 矢内　一利　渡邊　直人
	○	大西　智之
2020-09	テーマ	企業の国際競争戦略の変化と展望 Changes and Prospects of International Strategies of Multinational Enterprises
	☆	※横田　一彦　谷口　真美　白木　三秀 長谷川信次　△市田　敏啓　エドマン・ジェスパー 池上　重輔
	◎	△井上　葉子　今井　雅和　△今井　利絵 江夏　健一　桑名　義晴　佐藤　敦子 佐藤　幸志　清水さゆり　髙井　透 竹之内秀行　長谷川　礼　林　正 三輪　祥宏　山本　崇雄

2020-10	テーマ	グローバライゼーションと財務会計研究 Globalization and Financial Accounting Research
	☆	※八重倉　孝　奥村　雅史　鈴木　智英 山内　暁　秋葉　賢一　大塚　忠義 金子　裕子　川村　義則　篠原　真 菅野　浩勢　関根　愛子　伏見　俊行 松本　敏史　村松　洋介　吉野　真治
	◎	青山　慶二　安　珠希　飯塚　雄基 池村　恵一　石内　孔治　井手　健二 井出健二郎　海老原　諭　尾畑　裕 片山　覺　加藤　大吾　金子　善行 久保　幸年　栗原　克文　髙橋　秀至 千代田邦夫　辻山　栄子　遠谷　貴裕 鳥羽　至英　中井　誠治　中嶋　隆一 中田　有祐　長束　航　根岸　亮平 羽根　圭祐　濱田　崇嘉　原　誠 藤木　潤司　藤田　晶子　藤谷　涼祐 藻利　衣恵　山﨑　尚　山下　奨 尹　志煌　若林　利明　渡辺　剛 閻　粛
	○	畢　天維　栗城　綾子
2020-11	テーマ	イノベーション創出のメカニズムについてのマルチレベル分析 Investigating the Mechanisms of Innovation: A Multilevel Perspective
	☆	※山野井順一　井上　達彦　大月　博司 坂野　友昭　清水　洋　谷本　寛治 藤田　誠　三橋　平　マレン　ジョエル 村瀬　俊朗　梁取　美夫
	◎	△井口　衡　伊藤　泰生　石毛　昭範 宇田　理　大沼　沙樹　小沢　和彦 川崎　千晶　金　倫廷　黄　雅雯 厚東　偉介　小林　俊治　潜道　文子 花岡　幹明　日野　健太　古田　成志 万　涛　山口　善昭
	○	高坂　啓介　鄭　雅方　鳥田　友起 吉澤　昭人

2020-12	テーマ	社会経済システムの局所化に関する経済学理論とその応用 Theoretical and Empirical Research on Polarization of Socio-Economic Systems
	☆	※高瀬　浩一　片岡　孝夫　片山　東 △久保　克行　横山　将義　佐々木宏夫 豊泉　洋　伊藤　秀史　大門　毅 朴　相俊　△市田　敏啓　加納　和子 毛利　裕昭　笠島　洋一　鈴木　彩子 菊地　雄太　清水　弘幸　谷口みゆき 富　蓉
	◎	赤星　立　△井口　衡　伊藤さゆり 木口　武博　葛目　知秀　齋藤　卓爾 嶋村　紘輝　杉野　誠　高橋　達 橘　洋介　△張　艶　友原　章典 成川　康男　山口　圭子　横溝えりか
	○	金　鑫　野尻　純　平木　良子
2020-13	テーマ	生産組織の選択をめぐる労使関係と経済史 The Choice of Production Organizations: Industrial Relations and Economic History
	☆	※花井　俊介　池尾　愛子　小倉　一哉 矢後　和彦
	◎	井上　雄介　高橋　弘幸　安元　稔 柳沢　遊
	○	小杉　亮介

２）２０２０年度設置　分科会　研究報告

（研究期間：2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日）

整理番号　2020-01

研究課題　広告とマーケティングにおける価値創造への多面的アプローチ

研究業績の概要・成果発表等

人々の社会的価値観が大きく変化する現代において、新たな価値を分析し、創造するためのアプローチについて、広告やマーケティングの立場から多角的に検討した。産業社会での安全と安心、諸差別のない社会構築の支援等の必要性が確認できた。研究成果は、書籍、論文、学会等において発表し、内容の一層の充実を図りたい。

（1）論文・著書

研究所員名	業績種別（論文・単著・共著・研究ノート等）	発表論文名・著書名　等
☆恩藏直人	論文・共著	石田大典・大平進・恩藏直人「購入型クラウドファンディングの成功要因」『マーケティングジャーナル』日本マーケティング学会，2021 年 1 月
	論文（単著）	「働き方改革におけるテレワークの可能性」『学校運営』2020 年 2 月号
☆嶋村和恵	単著	「広告とその規制について」『運輸と経済』2021 年 2 月号 pp.33-38.
	単著	「新型コロナウイルスから広告を考える」『BtoB コミュニケーション』2021 年 3 月号 pp.1-5.
☆守口　剛	論文・共著	Li, J., Luo, X., Lu, X., and Moriguch, T. (2020), The Double-Edged Effects of E-Commerce Cart Retargeting: Does Retargeting Too Early Backfire?, Journal of Marketing, Online First Publication.
	論文・共著	Kwak, H., Puzakova, M., Rocereto, J.F., and Moriguchi, T. (2020), When the Unknown Destination Comes Alive: The Detrimental Effects of Destination Anthropomorphism in Tourism, Journal of Advertising, 49 (5), 508-524.
	論文・共著	Kwak, H., Zang, Y., Puzakova, M., and Moriguchi, T. (2020), Going it alone or together: the role of space between products on consumer perceptions of price promotions, International Journal of Advertising, 39 (7), 1086-1114.
	論文・共著	西井真祐子，守口剛（2020），製品パッケージに記載されている製品名と付随する影の方向の一致が処理の流暢性と製品選好に及ぼす影響 －反応時間および識別率による流暢性の測定－，行動計量学，47 (2), 187-197.
	論文・共著	Moriguchi, T, Kawamata, H., and Abe, S. (2020), Matrix type product display: Its concept and effectiveness, Proceedings of 2020 EMAC Regional Conference.
☆フランク・ビョーン	論文	J. Jirakraisiri, Y.F. Badir, B. Frank (2021): “Translating Green Strategic Intent into Green Process Innovation Performance: The Role of Green Intellectual Capital”, Journal of Intellectual Capital, forthcoming, DOI 10.1108/JIC-08-2020-0277 (査読有).
	論文	B. Frank (2021): “Artificial Intelligence-Enabled Environmental Sustainability of Products: Marketing Benefits and Their Variation by Consumer, Location, and Product Types”, Journal of Cleaner Production, 285, 125242, DOI 10.1016/j.jclepro.2020.125242 (査読有).

◎石崎　徹	論文	石崎徹（2021），広告メディア／デバイスに対する情報意識および広告に対する意識の比較分析－スマートフォンとテレビ，性別，年代別の比較－，専修経営学論集，第 111 号 2021 年 3 月，専修大学経営学会，3-20.
	学会報告（パネリスト）	パネリスト，石崎徹，片上崇，為末大，司会，佐藤達郎（2020），シンポジウム，スポーツと広告，日本広告学会第 51 回全国大会，江戸川大学，2020 年 10 月 24 日.
◎石田大典	論文・共著	石田大典，大平進，恩藏直人（2020）購入型クラウドファンディングの成功要因－シグナリング理論に基づく実証研究－，マーケティングジャーナル，40, 3, 6-18.
	著書・共著	井上淳子・石田大典（2021），新訂マーケティング，放送大学教育振興会 石田大典，第 2 章「マーケティングにおける環境分析」，25-37 石田大典，第 4 章「マーケティング・リサーチ」，55-67 石田大典，第 6 章「製品戦略」，84-95 石田大典，第 7 章「サービス・マーケティング」，96-109 石田大典，第 9 章「価格戦略」，126-141 石田大典，第 11 章「マーケティング・コミュニケーション」，158-170 石田大典，第 13 章「戦略的マーケティング」，188-201 石田大典，第 15 章「マーケティングと社会的責任」，217-228
◎大平　進	単著	「ギグ・エコノミーが製品開発に及ぼす影響－新しい働き方がもたらすイノベーション創出の可能性－」，大平進，『マーケティングジャーナル』，査読有，第 40 巻，第 3 号，45-57 頁，2021 年
	共著	「購入型クラウドファンディングの成功要因－シグナリング理論に基づく実証研究－」，石田大典，大平進，恩藏直人，『マーケティングジャーナル』，査読有，第 40 巻，第 3 号，6-18 頁，2021 年
◎芳賀康浩	論文	芳賀康浩（2021），マーケティング戦略としてのセグメンテーションの手順，青山経営論集，青山学院大学経営学会，55, 4, 63-78
◎広瀬盛一	共著、カンファレンスプロシーディング	Siwei Li, Morikazu Hirose, Yuting Liu, Kei Mineo, The role of qr codes in green advertisements: an empirical research combining tam and perceived, green value and green trust, 2020GLOBAL MARKETING CONFERENCE at Seoul, conference proceedings.
◎峯尾　圭	論文	武谷慧悟・峯尾圭（2021．3 予定）「新奇性の高い食品への消費者態度に関する基礎的研究－ツーリズム研究への応用に向けて－」『駒大経営研究』67-91 頁。
◎八ッ橋治郎	学会発表	Takashi Okamoto, Jiro Yatsuhashi, Naoki Mizutani. (2020), Consumers' Priorities for Online Flea Market, *7th Multidisciplinary International Social Networks Conference*, Kaohsiung, Taiwan

（２）学会発表

研究所員名	業績種別	発表タイトル・発表者名　等
☆恩藏直人	学会発表	石井裕明・平木いくみ・外川拓・恩藏直人「小売企業における感覚マーケティング」日本マーケティング学会，2010 年 10 月 18 日
	学会発表	磯田友里子・工藤玲・恩藏直人「シニア市場の多様性分析」日本マーケティング学会，2010 年 10 月 18 日
	学会発表	磯田友里子・工藤玲・恩藏直人「シニア市場の多様性分析」日本マーケティング学会，2010 年 10 月 18 日

☆守口　剛	学会発表	河股久司，守口剛，Hyokjin Kwak (2020)，色相に基づく配色が 消費者の態度に与える影響，日本マーケティング・サイエンス学会第 108 回研究大会，2020 年 12 月，オンライン.
☆フランク・ビョーン	学会発表	フランク・ビョーン，蘆　振鵬，胡　穎飛（2020）: “リサイクルプログラム戦略によるブランド・ロイヤルティの強化に関する研究”,「日本商業学会第 70 回全国研究大会」，9 月 19 日，オンライン形式，1-4（査読無）.
	学会発表	F.S. Rumokoy, B. Frank (2020): “The Managerial Role in Facilitating Employees’ Quality Management Practices for Marketing Outcomes”, 70th National Research Conference of the Japan Society of Marketing and Distribution, September 19, online, 5-8 (査読無).
	学会発表	胡　穎飛，フランク・ビョーン，蘆　振鵬（2020）: “製品のリサイクルは顧客維持にどのように貢献できるか”,「（社）日本品質管理学会第 50 回年次大会研究発表要旨集」，11 月 28 日，オンライン形式（査読無）.
◎広瀬盛一	学会発表	Yuting Liu, Kei Mineo, Morikazu Hirose, Examining the role of screen size and ad skepticism on consumer attitudes toward subtitled video ads: an investigation and analysis of moderated moderation, 2020 GLOBAL MARKETING CONFERENCE at Seoul. Siwei Li, Morikazu Hirose, Yuting Liu, Kei Mineo, The role of qr codes in green advertisements: an empirical research combining tam and perceived green value and green trust, 2020 GLOBAL MARKETING CONFERENCE at Seoul.
◎峯尾　圭	学会発表	Keigo Taketani, Kei Mineo (2020.11.6) “Which Do Customers Like Better, Compensation or Apology? Examining the Moderating Role of Regulatory Focus on Service Recovery” 2020 Global Marketing Conference at Seoul, GAMMA
	学会発表	Siwei Li, Morikazu Hirose, Yuting Liu, Kei Mineo (2020.11.6) “The Role of QR Codes in Green Advertisements: An empirical research combining TAM and perceived green value and green trust” 2020 Global Marketing Conference at Seoul, GAMMA
	学会発表	Yuting Liu, Kei Mineo, Morikazu Hirose (2020.11.6) “Examining the Role of Screen Size and Ad Skepticism on Consumer Attitudes Toward Subtitled Video Ads: An Investigation and Analysis of Moderated Moderation” 2020 Global Marketing Conference at Seoul, GAMMA

整理番号　2020-02

研究課題　「一帯一路」構想と異文化接触をめぐる研究

研究業績の概要・成果発表等

2020 年度はコロナ禍のもと、オンラインで研究活動を継続したが、予定していたシンポジウムは開催を断念せざるを得ず、想定していた研究成果をあげることが出来なかった。分科会として開催した講演会は下記の通り。

2020 年 6 月 11 日

新貝　憲弘氏（東京新聞外報部デスク記者）「新型コロナが映し出す中国」

2020 年 11 月 13 日

飯塚　　容氏（中央大学教授）「中国におけるコロナ禍――方方『武漢日記』を読む」

2020 年 11 月 19 日

倉田　　徹氏（立教大学教授）「香港国家安全維持法と東アジアのゆくえ」

2020 年 12 月 15 日

劉　セイラ氏（声優）「言葉の壁をぶち壊せ――日中アニメ声優・劉セイラの日中比較文化論」

（1）論文・著書

研究所員名	業績種別（論文・単著・共著・研究ノート等）	発表論文名・著書名　等
※小川利康	論文	「1923：周作人与“甘粕事件”始末」（『華中学術』2021 年第 1 期）p.1-14，査読あり
	論文	「「人的文学」的思想源脈論析――藹理斯与新村主義的影響」（『長江学術』66 号, 2020 年 6 月）P.27-38, 査読あり
	書評	「フェミニストが捉えた封城の真実」（『東方』477 号，2020 年 12 月）P.24-29
	短評	「コロナ禍とディストピア――中国武漢で起きたこと」（『WASEDA ONLINE』2021 年 1 月 12 日）
☆クラウス マヌエル P	書評	Doitsugo ga hiraku chihei 1: Danzetsu no komyunikêshon (Perspektiven der deutschen Sprache 1: Gestörte Kommunikation) 日本独文学会機関誌 (160) 2021 年 3･4 月刊行 査読あり
	論文	Effektive Vermittlung der Artikelsemantik im Fremdsprachenunterricht Deutsch als Fremdsprache für Japanische Deutschlerner (JDL) im ersten Semester - Eine Fehleranalyse im virtuellen Bildungsraum mittels der Lern-Applikation Kahoot. 早稲田大学商学同攻会『文化論集』(59) 2021 年 3 月刊行
	論文	Similarities and Differences in Correction Operations - Quantitative and Qualitative Analyses based on a Learner Corpus. 信州大学人文科学論集 8 (2) 2021 年 3 月刊行 査読あり
	論文	Herr Sowtschicks feines Gespür für Plankton - Walter Kempowskis Hundstage (1988) und Letzte Grüße (2003) als Wiedervereinigungsplankton der Erinnerung. 早稲田大学商学同攻会『文化論集』58 号, 35 – 90 頁, 2020 年 9 月
	論文	Soft fade out. Alles aus, alles umsonst! - Der Tod von Alexander Sowtschick als poetische Selbstinszenierung des Alltags in Walter Kempowskis Letzte Grüße (2003). 早稲田大学商学同攻会『文化論集』58 号, 91-123 頁, 2020 年 9 月
☆原口　厚	単著	『ドイツ語読解法　目標と方法』（早稲田大学出版部　2020 年 12 月）全 5 章

☆矢内義顯	共著	山口雅弘・藤本温編著『西洋中世の正義論』晃洋書房，2020. 5. 20 第五章「アンセルムスにおける義について」pp. 93-111
☆李　洪茂	単著	『风险管理论』Hongmu Lee, Hakuei Publishing Company，2020 年 8 月（中国語版）（全 15 章）
	単著	*Principles of Risk Management*, Hongmu Lee, Hakuei Publishing Company, 2020 年 8 月（韓国語版）（全 15 章）
☆中村みどり	論文	「青島興亡をめぐる民族意識と父の記憶――洪深の映画脚本「劫後桃花」を中心に」（中国モダニズム研究会編著『夜の華――中国モダニズム研究会論集』中国文庫，2021 年 3 月，148-173 頁，査読有）
◎川邉信雄	評論	「コンビニ FC システムにおける本部対加盟店の軋轢―第 1 回繰り返される軋轢」『月刊コンビニ』2020 年 4 月号，28-29 頁.
	評論	「コンビニ FC システムにおける本部対加盟店の軋轢―第 2 回 FC システムに内在する利害対立の構図」『月刊コンビニ』2020 年 5 月号，27-28 頁.
	評論	「コンビニ FC システムにおける本部対加盟店の軋轢―第 3 回紛争の調整と解決の構図」『月刊コンビニ』2020 年 6 月号，28-29 頁.
	評論	「コンビニ FC システムにおける本部対加盟店の軋轢―第 4 回本部と加盟店の軋轢の始まり」『月刊コンビニ』2020 年 7 月号，54-55 頁.
	評論	「コンビニ FC システムにおける本部対加盟店の軋轢―第 5 回初期の軋轢に対する行政機関と本部の対応」『月刊コンビニ』2020 年 8 月号，54-55 頁.
	評論	「コンビニ FC システムにおける本部対加盟店の軋轢―第 6 回経済低迷による利害の対立と係争事件の増加」『月刊コンビニ』2020 年 9 月号，52-53 頁.
	評論	「コンビニ FC システムにおける本部対加盟店の軋轢―第 7 回コンビニ・FC 加盟店全国協議会の設立」『月刊コンビニ』2020 年 10 月号，54-55 頁.
	評論	「コンビニ FC システムにおける本部対加盟店の軋轢―第 8 回コンビニ FC の基本システムをめぐる係争」『月刊コンビニ』2020 年 11 月号，54-55 頁.
	評論	「コンビニ FC システムにおける本部対加盟店の軋轢―第 9 回本部・行政の対応と加盟店ユニオンの結成」『月刊コンビニ』2020 年 12 月号，52-53 頁.
	評論	「コンビニ FC システムにおける本部対加盟店の軋轢―第 10 回 24 時間をめぐる対立」『月刊コンビニ』2021 年 1 月号､60-61 頁.
	評論	「コンビニ FC システムにおける本部対加盟店の軋轢―第 11 回 24 時間営業問題から独占禁止法違反問題へ」『月刊コンビニ』2021 年 2 月号，50-51 頁.
	評論	「即席麺はなぜ，『国民食』から『世界食』になったのか―食の国際化を考える」『農業と経済』第 87 巻第 2 号（臨時増刊号），2021 年 3 月，25-36 頁.
◎白石　徹	論説	「国際展望　道しるべなき仲介外交」（『東京新聞』2021 年 1 月 3 日）
◎鈴木岩行	書評	小浜正子『一人っ子政策と中国社会』（『和光経済』第 53 巻 3 号，2021 年，和光大学）
◎張　　艶	論文・単著	Zhang Y. (2020), China's Economic Growth and Financial Development after Reform and Opening-up, Advances in Economics and Business, 8, 6, 321-332 Horizon Research Publishing

（２）学会発表

研究所員名	業績種別	発表タイトル・発表者名　等
※小川利康	学会発表	「中国語初級のオンライン授業実践――早大商学部のケース」（漢字文献情報処理研究会第 23 回大会，2021 年 3 月 13 日，オンライン）
☆クラウス マヌエル P	学会発表	Zwischen Kamera und Jagdwaffe. Exotismen und Ethnographie in den Auslandsexpeditionen vor dem Zweiten Weltkrieg nach Südamerika und Tibet von Otto Schulz-Kampfhenkel und Ernst Schäfer. (Exotismen in der Kritik. Digitaler internationaler Workshop vom 27. bis 28. März 2021 an der Nihon University (Tokyo) 2021 年 3 月 27 日, Online)
	学会発表	Wie digitalisierte und virtuelle Bildungsräume die grammatischen Fertigkeiten japanischer Deutschlerner (JDL) im DaF-Unterricht steuern. (Virtuelles Forschungskolloquium DaF in Japan 2021 年 2 月 6 日, Online)
☆李　洪茂	学会発表	*Public pension in Japan*, Hongmu Lee and Marji Rhee, IAFICO, Seoul University, 2020 年 8 月 7 日(On-line)
	学会発表	「日本における年金制度」Hongmu Lee, 2021 韓国経済学共同学術大会，zoom，2021 年 2 月 5 日
☆中村みどり	学会発表	「対中文化政策をめぐる内山完造の言説――『大陸新報』『花甲録』を中心に」（内山完造研究会第 33 回研究例会，2020 年 12 月 12 日，オンライン）
	学会発表	「中国人文学者たちの「大東亜文学者大会」――『新申報』『大陸新報』における陶晶孫の言説に見る多層性」（日中共同研究第 4 回研究例会，2021 年 2 月 19 日，オンライン）
	学会発表	「呂慧君『日中友好の〈媒介者〉内山完造の文学・文化活動に関する多元的研究』」論評（内山完造研究会第 35 回研究例会，2021 年 3 月 27 日，オンライン）
◎竹之内玲子	学会発表	「航空機産業における環境変化と競争構造に及ぼす影響」（日本経営品質学会秋季研究発表大会，2020 年 11 月 14 日，オンライン）
◎張　　艷	学会発表	Zhang Y. (2021), A Comparative Analysis on China, Japan and the U.S. Stock Markets and Global Financial Crisis, 2021 Virtual International Conference of Western Economic Association International

整理番号　2020-03

研究課題　技術革新、自然・社会環境の変化が保険ビジネス及び保険制度に与える影響と課題

研究業績の概要・成果発表等

科学技術、自然・社会環境の変化は、様々なリスクを対象とする保険とその周辺制度に多くの影響を与えている。参加者は、こうした大きな変化を基本的視点として、それぞれの得意分野において、保険制度とその関連領域の研究を進め、論文執筆や学会報告を行った。論文や学会報告では、世界に向けた発信にも努め、一部は、英語による発信も行った。

（1）論文・著書

研究所員名	業績種別（論文・単著・共著・研究ノート等）	発表論文名・著書名　等
※中出　哲	論文（共著）	「再保険契約のグローバルな準則―再保険契約原則（PRICL）の策定について―」損害保険研究 82 巻 1 号 pp.261-304，2020 年 5 月（共著）
	論文（単著）	“Does the Doctrine of Subrogation apply equally to Social Insurance? Issues raised by a Supreme Court Decision in Japan” RETOS Y DESAFIOS DEL CONTRATO DE SEGURO: DEL NECESARIO AGGIORNAMENTO A LA METAMORFOSIS DEL CONTRACTO, Thomson Reuters, 2020, pp.413-432.
	論文（単著）	「自動車事故弁護士費用特約の免責条項における「労働災害」は通勤災害を含むとして免責を否定した事例」損害保険研究 82 巻 4 号 pp.117-137，2021 年 2 月
☆田口尚志	論文（単著）	「EXW 条件に関する一考察」，日本貿易学会誌 (57), 35-48, 2020 年
	論文（単著）	「電子商取引の更なる発展を目指して」，国際商事法務 48 巻 12 号，国際商事法務研究所，35-48 頁，2020 年
☆李　洪茂	単著	『风险管理论』Hongmu Lee, Hakuei Publishing Company，2020 年 8 月（中国語版）（全 15 章）
	単著	*Principles of Risk Management*, Hongmu Lee, Hakuei Publishing Company，2020 年 8 月（韓国語版）（全 15 章）
◎恩藏三穂	共著	Okada, F., Onzo, M., & Kurimoto, A. (2020). Mutual insurance and cooperative kyosai in Japan. In J. Brazda (Ed.), The development of the mutuality principle in the insurance business: An international comparison (pp. 827-865). Lit Verlag.
	単著	「シンガポール NTUC インカムにみるデジタル・イノベーション」『生活協同組合研究』No.531，40-46 頁，2020 年
◎佐々木博之	単著	『生命保険会社の企業形態と資産運用でのリスクテイキング』（三隅隆司，茶野努，安田行宏編「日本企業のコーポレート・ガバナンス―エージェンシー問題の克服と企業価値向上―」第 12 章，pp.213-228，中央経済社，2020 年）
◎安井敏晃	単著	「健康増進型保険が保険事業に与える影響について」『保険学雑誌』第 649 号，pp.197-216.（2020）

（2）学会発表

研究所員名	業績種別	発表タイトル・発表者名　等
※中出　哲	学会発表	*Ocean Marine Insurance Contract in Japan*, K-ASEAN Risk Management Insurance FORUM, Online, 2020 年 12 月 27 日（英語）

	学会発表	日本保険学会九州部会「保険契約における免責条項の意義」2021 年 3 月 13 日
☆李　洪茂	学会発表	*Public pension in Japan*, Hongmu Lee and Marji Rhee, IAFICO, Seoul University, 2020 年 8 月 7 日 (On-line).
李　洪茂	学会発表	「日本における年金制度」Hongmu Lee, 2021 韓国経済学共同学術大会，zoom，2021 年 2 月 5 日（韓国語）

整理番号　2020-04

研究課題　民法・会社法の改正が企業活動に及ぼす影響と法的課題

研究業績の概要・成果発表等

当分科会の研究課題との関係では、第 1 に、民法（債権関係）が 2020 年 4 月 1 日に施行されるとともに、2019 年に改正が行われた会社法が 2021 年 3 月 1 日に施行されたことから、分科会としての研究は、改正民法および改正会社法が企業活動にいかなる影響を現に及ぼしているか、今後どのような影響を及ぼすものと想定されるかに、一つの力点を置いた。こうした観点から、中村、新井および和田の各分科会メンバーは、論文・共著書を発表した。

第 2 に、新型コロナウイルスの感染拡大という問題が企業活動に大きな影響を及ぼし、様々な課題を突き付けていることは周知のとおりであるが、その観点から、和田は、新型コロナウイルスの感染拡大への法的対応を株主総会の運営との関係で論じる論文を発表し、理論・実務上の問題提起を行った。

第 3 に、2020 年度は多くの重要裁判例が企業法に関連して公表されたが、中村、和田、川島および李は研究会での発表を踏まえ、該当判例を理論・実務の両面から分析する論文を発表した。

第 4 に、民法・会社法については比較法研究を行っており、中村、川島および李がそれぞれ論文ないし共著書を発表し、着実に研究成果を積み上げた。

なお、2020 年度は冒頭から新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言等の影響により、研究会・講演会等の実施に大きな制約を受けたことから、その面での共同活動は行えなかったが、各自がそれぞれの研究テーマに沿って下記の業績欄にある通りの研究業績を残し、分科会としての研究活動を支えた次第である。

2021 年度は、新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、共同研究活動も併せ行い、分科会の研究活動の充実を図りたいと考えている。

（1）論文・著書

研究所員名	業績種別（論文・単著・共著・研究ノート等）	発表論文名・著書名　等
※中村信男	論文	中村信男（2021），労働者協同組合法の制定とその概要，商事法研究リポート，MJS 税経システム研究所，https://tvs.mjs.co.jp/working/commercial/businesslaw/detail/article/-d82425eb98.html
	論文	中村信男（2021），会社補償・D&O 保険，法学教室，有斐閣，485, 27-31
	論文	中村信男（2020），<新版>英法系諸国の会社法〔59〕，国際商事法務，国際商事法研究所，48, 8, 1073-1079
	論文	中村信男（2020），戦略的資本減少と最近の裁判例から学ぶ実施上の留意点，Monthly Report，MJS 税経システム研究所，139, 10-14
	論文	中村信男（2020），病名告知がないときの告知義務違反，保険事例研究会レポート，生命保険文化センター，333, 1-9
	論文	中村信男（2020），一人株主に大きな影響力をもつ取締役への招集通知を欠いた取締役会決議の効力，金融・商事判例，経済法令研究会，1595, 2-7
	共著	酒巻俊雄・川島いづみ・中村信男・酒巻俊之・菊田秀雄（2021），英法系諸国の会社法―理論と実務・1（総説・設立・株式と株主），中央経済社，全 4 章 11 編 中村信男，第 2 章「会社の種類と公開会社・私会社の別」，45-104 中村信男，第 4 章「株式・株主」・「Ⅰ　株式」の「2　オーストラリア」「3　インド」「4　カナダ」，173-197

		（菊田秀雄氏との共著） 中村信男，第 4 章「株式・株主」・「Ⅲ　株主」の「5　会社業務等の調査・検査制度」，264-302
	共著	中村信男・和田宗久・新井剛（2020），ビジネス法入門（第 3 版），中央経済社，全 17 章 中村信男，第 1 章「イントロダクション」，1-10 中村信男，第 8 章「商取引法の概要と特色(1)」，68-74 中村信男，第 9 章「商取引法の概要と特色(2)」，75-82 中村信男，第 16 章「M&A および組織再編等」，160-174 中村信男，第 17 章「支払決済手段」，175-190
☆新井　剛	論文	新井剛（2020），改正債権法における保証制度のあり様，早稲田商学，459, 69-153
	論文	新井剛（2020），架空請求・振り込め詐欺，河上正二・沖野眞已編・消費者法判例百選［第 2 版］，有斐閣，62-64
	共著	中村信男・和田宗久・新井剛（2020），ビジネス法入門（第 3 版），中央経済社，全 17 章 新井剛，第 2 章「企業取引と法律」，11-16 新井剛，第 3 章「企業取引と契約(1)」，17-23 新井剛，第 4 章「企業取引と契約(2)」，24-31 新井剛，第 5 章「企業取引と契約(3)」，32-42 新井剛，第 6 章「企業取引と契約(4)」，43-53 新井剛，第 7 章「不動産および動産の取引」，54-67
☆和田宗久	論文	和田宗久（2021），有価証券届出書の虚偽記載と元引受証券会社の民事責任，法律のひろば，ぎょうせい，74, 3, 51-61
	論文	和田宗久（2020），新型コロナウイルスへの対応を契機とした株主総会の将来像，Monthly Report，MJS 税経システム研究所，140, 14-17
	共著	岸田雅雄監修，神作裕之・弥永真生・大崎貞和編（2020），注釈金融商品取引法【改訂版】，第 4 巻，金融財政事情研究会　和田宗久，574-624
	共著	中村信男・和田宗久・新井剛（2020），ビジネス法入門（第 3 版），中央経済社，全 17 章 和田宗久，第 10 章「会社制度の特徴と会社の種類」，83-91 和田宗久，第 11 章「株式会社の経営機構と監視・監督制度」92-104 和田宗久，第 12 章「上場会社とコーポレート・ガバナンス」105-120 和田宗久，第 13 章「役員等の義務と報酬規制」121-133 和田宗久，第 14 章「役員等の民事責任と株主代表訴訟」134-148 和田宗久，第 15 章「ファイナンスに関する法制度」149-159
☆川島いづみ	論文	川島いづみ (2021)，〈新版〉英法系諸国の会社法〔66・完〕，国際商事法務，国際商事法研究所，49, 3, 333-340
	論文	川島いづみ（2021），〈新版〉英法系諸国の会社法〔65〕，国際商事法務，国際商事法研究所，49, 2, 181-188
	論文	川島いづみ（2021），〈新版〉英法系諸国の会社法〔64〕，国際商事法務，国際商事法研究所，49, 1, 45-52
	論文	川島いづみ (2020)，〈新版〉英法系諸国の会社法〔63〕，国際商事法務，国際商事法研究所，48, 12, 1693-1700
	論文	川島いづみ (2020)，〈新版〉英法系諸国の会社法〔62〕，国際商事法務，国際商事法研究所，48, 11, 1533-1541
	論文	川島いづみ (2020)，〈新版〉英法系諸国の会社法〔61〕，国際商事法務，国際商事法研究所，48, 10, 1374-1382

	論文	川島いづみ（2020），〈新版〉英法系諸国の会社法〔60〕，国際商事法務，国際商事法研究所，48, 9, 1221-1228
	論文	川島いづみ（2020），アドバネスク事件控訴審判決（株主総会決議不存在確認等請求控訴事件），法律のひろば，ぎょうせい，73, 6, 46-52
	論文	川島いづみ（2020），私立大学ガバナンス・コードの現状と課題，法律時報，日本評論社，92, 5, 144-148
	共著	岩原紳作編（2021），会社法コンメンタール 19－外国会社・雑則(1)，商事法務 川島いづみ，681-692
	共著	酒巻俊雄・川島いづみ・中村信男・酒巻俊之・菊田秀雄（2021），英法系諸国の会社法―理論と実務・1（総説・設立・株式と株主），中央経済社，全 4 章 11 編 川島いづみ，第 3 章「株式会社の設立・開業」，105-158 川島いづみ，第 4 章「株式・株主」・「Ⅲ　株主」の「1　株主の地位」「2　株主の権利および義務」「3　抑圧・不公正な侵害等の救済制度」「4　株主代表訴訟と集団訴訟」，222-264
◎李　艶紅	論文	李艶紅（2020），香港 WVR 上場会社におけるコーポレート・ガバナンス規制のあり方，埼玉工業大学人間社会学部紀要，18，29-38
	論文	李艶紅（2020），支払停止後の手形の裏書譲渡に対する否認権の効力，早稲田法学，96，1，211-218

整理番号　2020-05

研究課題　４次元空間内の曲面の研究

研究業績の概要・成果発表等

　査読付き国際論文に３編の論文（A ランク１編、B ランク２編）を出版した。
海外研究者（Jean-Baptiste Meilhan、グルノーブル・アルプス大学、フランス）を招聘する予定であったが、コロナウイルス感染拡大の影響で中止した。

（１）論文・著書

研究所員名	業績種別（論文・単著・共著・研究ノート等）	発表論文名・著書名　等
※安原　晃	論文・共著	Miyazawa, Haruko A.; Wada, Kodai; Yasuhara, Akira Generalized virtualization on welded links. J. Math. Soc. Japan 72 (2020), no. 3, 923-944.
☆辻内宣博	共著	中野隆生，加藤玄 編（2020），フランスの歴史を知るための 50 章，明石書店，全 50 章 辻内宣博，第 12 章「神学 vs. 哲学――世界の永遠性をめぐる 13 世紀パリ大学での論争」，90-95
	共著	山口雅広，藤本温 編（2020），西洋中世の正義論――哲学史的意味と現代的異義――，勁草書房，全 12 章，辻内宣博，第 10 章「すべての徳の基底となる「法の正義」の在り方――トマス・アクィナスとジャン・ビュリダン――」，209-234
	共著	伊藤邦武，山内志朗，中島隆博，納富信留 編（2020）世界哲学史 4――中世Ⅱ個人の覚醒，ちくま新書，全 10 章，辻内宣博，第 7 章「西洋中世哲学の総括としての唯名論」，159-179
☆谷山公規	論文・共著	M. Arai and K. Taniyama, Knot diagrams on a punctured sphere as a model of string figures, J. Knot Theory Ramifications, 2050071, 2020/10/13.
	論文・共著	Y. Akimoto and K. Taniyama, Unknotting numbers and crossing numbers of spatial embeddings of a planar graph, J. Knot Theory Ramifications, 2050095, 2021/1/18.

（２）学会発表

研究所員名	業績種別	発表タイトル・発表者名　等
◎田中　心	学会発表	Knot coloring polynomial and the invariant using quandle colorings of 1-tangles, Kokoro Tanaka, The 16th East Asian Conference on Geometric Topology

整理番号　2020-06

研究課題　日本・世界のコーポレートガバナンスと金融・労働市場

研究業績の概要・成果発表等

本年度は、ファイナンスや組織の経済学と関連するオンラインでのセミナーを計 9 回開催した。

各セミナーとも内外の最先端の研究を報告するもので、参加メンバーの研究に大きく貢献した。

また、研究会の前にモデレーターと報告者等でのミーティングを行うことで、研究ネットワークの維持、拡大に寄与した。

（1）論文・著書

研究所員名	業績種別（論文・単著・共著・研究ノート等）	発表論文名・著書名　等
※広田真一	論文	Shinichi Hirota, Jurgen Huber, Thomas Stockl, and Shyam Sunder (2020), "Speculation, Money Supply and Price Indeterminacy in Financial Markets: An Experimental Study", Journal of Economic Behavior and Organization, Forthcoming.
	論文	広田真一（2020），「株主第一主義か，ステークホルダー主義か」『証券アナリストジャーナル』Vol. 58, No.11, 18-29.
☆宮島英昭	論文	「“歴史”からみる日本の M&A」『法律のひろば』Vol.73　No.8　pp.13-21　ぎょうせい　2020 年 8 月 1 日
	論文	「アベノミクス下の企業統治改革―2 つのコードは何をもたらしたのか（最終回　企業統治改革の帰結と今後の改革方向〔下〕）」『旬刊商事法務』社団法人商事法務研究会　No.2236　pp.31-38　2020 年 7 月 15 日（齋藤卓爾との共著）
	論文	「アベノミクス下の企業統治改革―2 つのコードは何をもたらしたのか（最終回　企業統治改革の帰結と今後の改革方向〔上〕）」『旬刊商事法務』社団法人商事法務研究会　No.2235　pp.4-12　2020 年 7 月 5 日（齋藤卓爾との共著）
	論文	「アベノミクス下の企業統治改革―2 つのコードは何をもたらしたのか（第 5 回　企業統治改革と企業行動〔下〕―経営者のマインドセットを変えることができたのか―）」『旬刊商事法務』社団法人商事法務研究会　No.2233　pp.48-52　2020 年 6 月 15 日（齋藤卓爾との共著）
	論文	「アベノミクス下の企業統治改革―2 つのコードは何をもたらしたのか（第 5 回　企業統治改革と企業行動〔中〕―経営者のマインドセットを変えることができたのか―）」『旬刊商事法務』社団法人商事法務研究会　No.2232　pp.40-45　2020 年 6 月 5 日（齋藤卓爾との共著）
	論文	「アベノミクス下の企業統治改革―2 つのコードは何をもたらしたのか（第 5 回　企業統治改革と企業行動〔上〕―経営者のマインドセットを変えることができたのか―）」『旬刊商事法務』社団法人商事法務研究会　No.2231　pp.49-54　2020 年 5 月 25 日（齋藤卓爾との共著）
	論文	「アベノミクス下の企業統治改革―2 つのコードは何をもたらしたのか（第 4 回　コーポレートガバナンス・コードと政策保有株の売却―開示規制は有効であったか―）」『旬刊商事法務』社団法人商事法務研究会　No.2230　pp.71-80　2020 年 5 月 5・15 日（齋藤卓爾との共著）
	論文	「アベノミクス下の企業統治改革―2 つのコードは何をもたらしたのか（第 3 回　コーポレートガバナンス・コードは何をもたらしたか―取締役会改革とその帰結―）」『旬刊商事法務』社団法人商事法務研究会　No.2227　pp.45-53　2020 年 4 月 5 日（齋藤卓爾との共著）
	論文	「アベノミクス下の企業統治改革―2 つのコードは何をもたらしたのか（第 2 回　スチュワードシッ

		プ・コードは何をもたらしたか―機関投資家のエンゲージメントの強化―)」『旬刊商事法務』社団法人商事法務研究会　No.2226　pp.20-30　2020 年 3 月 25 日（齋藤卓爾との共著）
	論文	「アベノミクス下の企業統治改革―2 つのコードは何をもたらしたのか（第 1 回　企業統治改革の進展とその論理構造)」『旬刊商事法務』社団法人商事法務研究会　No.2224　pp. 12-23　2020 年 3 月 5 日（齋藤卓爾との共著）
☆久保克行	論文	久保克行　内ヶ﨑　茂　吉田宏克　高木　悠　岩田　航（2020）報酬ガバナンス・コーポレートガバナンスと経営者報酬　―経営者報酬サーベイ結果から―　旬刊　商事法務　No.2238 (8 月 5･15 日号)
	論文	久保克行　内ヶ﨑茂　鈴木啓介　中川和哉　山内浩嗣　瀬古進　霧生拓也（2021）日本企業のトップマネジメントの現状と改革に向けた提言〔上〕日本企業のトップマネジメントチーム・取締役会改革の方向性　旬刊　商事法務　No.2253（2 月 5 日号）
	論文	久保克行　内ヶ﨑茂　村澤竜一　山内浩嗣　瀬古　進　霧生拓也（2021）日本企業のトップマネジメントの現状と改革に向けた提言〔下〕取締役スキルの現状分析と取締役会スキル・マトリックスのあり方　旬刊　商事法務　No.2254（2 月 15 日号）
	研究ノート	久保克行　内ヶ﨑茂　吉田宏克　高木　悠　岩田　航（2020）2019 年経営者報酬サーベイ結果の傾向と分析　資料版／商事法務　436 号（2020. 07）
☆尾崎祐介	論文	Asano, T. and Osaki, Y. Optimal investment under ambiguous technology shocks. Forthcoming in European Journal of Operational Research.
	論文	Fujii, Y. Ogaku, M. Okura, M. and Osaki, Y. (2020) How do optimistic individuals affect insurance advertisement? Asia-Pacific Journal of Risk and Insurance 14, 20190039.
☆鈴木一功	論文	企業の現預金保有と財務指標（ROE，ROIC，加重平均資本コスト（WACC），ベータ）への影響，M＆A 専門誌マール・2021 年 2 月号
☆宇野　淳	論文	宇野淳・戸辺玲子「国債決済期間短縮化とイントラデー・レポレート」2020 年 12 月　証券アナリストジャーナル
	論文	宇野淳・柴田舞・戸辺玲子「呼値変更：市場間競争と流動性供給へのインパクト」2020 年 6 月
☆五島圭一	論文	Goshima, K., Ishijima, H., Shintani, M. and Yamamoto, H. (2020), Forecasting Japanese inflation with a news-based leading indicator of economic activities, Studies in Nonlinear Dynamics and Econometrics, forthcoming
	論文	Aoki, K., Miyazawa, A., Ishigaki, T., Aoki, T., Noji, H., Goshima, K., Takamura, H., Miyao, Y., and Kobayashi, I., (2021) Controlling contents in data-to-document generation with human-designed topic labels, Computer Speech and Language, 66, 323-332
	論文	加藤大輔，五島圭一（2021），有価証券報告書のテキスト分析：経営者による将来見通しの開示と将来業績，金融研究，forthcoming
☆小倉義明	論文	“Intensified Competition and Search-for-Yield under prolonged monetary easing”, Journal of the Japanese and International Economies 56: 101076.

（2）学会発表

研究所員名	学会発表	発表タイトル・発表者名　等
※広田真一	学会発表	Shinichi Hirota, “Do Mission Statements Affect Firm Outcomes? Stakeholder Approach” Conference for the Society for the Advancement of Socio-Economics (Virtual Conference), July 19, 2020, (with Yoshimi Shibano, Junichi Yamanoi, and Alessandro Zattoni)

☆宮島英昭	学会発表	「どのようなタイプの海外 M&A がパフォーマンスを改善させているのか」日本ファイナンス学会第 28 回大会　2020 年 6 月 14 日（飯野佳亮との共著）
☆尾崎祐介	学会発表	Osaki, Y. (2020) Insurance demand in the presence of state dependent background uncertainty. Virtual World and Insurance Economics Congress, Online.
	学会発表	Osaki, Y. (2020) Optimal demand for index insurance under basis ambiguity. Virtual World and Insurance Economics Congress, Online.
	学会発表	Osaki, Y. (2020) Intertemporal prevention and savings: promotion for self-reliance. 2020 Taiwan Risk and Insurance Association, Online.
	学会発表	尾崎祐介（2020）曖昧性がインデックス保険の需要に与える影響の理論的考察，保険学セミナー，オンライン.
☆宇野　淳	学会発表	Jun Uno, Reiko Tobe, “Cover Risk”, 2020 年 5 月，日本金融学会
	学会発表	宇野淳・柴田舞・戸辺玲子「呼値変更：市場間競争と流動性供給へのインパクト」2020 年 6 月　日本ファイナンス学会 2020 年大会
☆五島圭一	学会発表	Uehara, Y., Ishigaki, T., Aoki, K., Noji, H., Goshima, K., Kobayashi, I., Takamura, H., and Miyao, Y., Learning with Contrastive Examples for Data-to-Text Generation, The 28th International Conference on Computational Linguistics, Online.
○飯野佳亮	学会発表	飯野佳亮・宮島英昭（2020），どのようなタイプの海外 M&A がパフォーマンスを改善させているのか，日本ファイナンス学会第 28 回大会
○Nguyen Thi Phuong Thanh	学会発表	Paper title: “Foreign director and firm performance in Japan”, presented at the 6th Annual International Corporate Governance Society Conference held at Old Dominion University Norfolk, Virginia, USA from November 13-15, 2020.
	学会発表	Paper title: “Effects of female directors on gender diversity at lower organizational levels and CSR performance: Evidence in Japan”, presented at the 8th Annual International Conference on Emerging Challenges: Contemporary Issues in Innovation and Management held at Halong, Vietnam from 2-3 November, 2020.
	学会発表	Paper title: “Effects of female directors on gender diversity at lower organizational levels and CSR performance: Evidence in Japan”, presented at the Japan Finance Association 44th Conference held at Obirin University, Tokyo from 3-4 October, 2020.
	学会発表	Paper title: “Effects of female directors on gender diversity at lower organizational levels and CSR performance: Evidence in Japan”, presented at the 2020 SASE Annual Conference, organized by Society for the Advancement of Socio-Economics from 18 to 20 July 2020 at University of Amsterdam, Amsterdam, The Netherlands.
	学会発表	Paper title: “Female CEO on Japanese corporate boards and firm performance”, presented at: The 28th annual conference of Nippon Finance Association (NFA), held at Tokyo Metropolitan University on June 13-14, 2020
○吉田賢一	学会発表	吉田賢一（2020），CSR Activities and Japanese Corporate Groups，日本経営財務研究学会，東日本部会，ウェビナー方式（Zoom）（2020 年 6 月 11 日）
	学会発表	吉田賢一（2020），CSR Activities and Japanese Corporate Groups，企業と社会フォーラム，第 32 回東日本部会，ウェビナー方式（Zoom）（2020 年 12 月 12 日）

整理番号　2020-07

研究課題　英語による発信力を強化する体系的プログラムの開発

研究業績の概要・成果発表等

2019 年度は、研究計画による「研究分担」に基づいて各研究員が研究を行った。特に、山田は海外学会で発表を、篠原は発話・発声に関する研究を A* ジャーナルに公表した。

また、2 回の全体会合、2 回の講演会（プロ研 BTCI 共催）を行い、その都度情報を交換した。外部資金の申請獲得も積極的に行った。2020 年度は、COVID-19 対策長期化のために、2019 年度と同じく、各研究員が「研究分担」に基づく各研究員の独自の研究に頼る事となり、部会としてのまとまった活動はできなかった。その中でも、篠原が論文を A ランクジャーナルに公表しただけでなく、オンラインによる学会発表も行った。科研費の獲得も積極的に行い、新規の採択もあった。来年度以降、同テーマで研究を継続する予定で、2020 年度の蓄積も基に部会での活動を再開したい。

（1）論文・著書

研究所員名	業績種別（論文・単著・共著・研究ノート等）	発表論文名・著書名　等
※森田　彰	著書監修	森田彰（2021）*Target! upper-intermediate*，金星堂
☆鈴木利彦	論文	SUZUKI, T. and SATO, A. (2020). “A Study of the Speech Event of ‘Offering’ in English from the Viewpoint of Politeness”. Proceedings of the 22nd Conference of the Pragmatics Society of Japan. 177-184
☆山田　茂	分担執筆	篠田義明他．2020．『科学・ビジネス英語活用辞典』研究社.
	単著	山田茂．2020．『OALD10 活用ガイド』旺文社．全 9 章.
	分担執筆	日本英語表現学会テキスト研究部会．2020．Writing Skills for Readers. 南雲堂．全 15 章．「辞書の使い方（1）（2）」（pp. 6-8, 52-3）執筆.
☆篠原靖明	論文	Shinohara, Y. (accepted). Audiovisual English /r/-/l/ identification training for Japanese-speaking adults and children. *Journal of Speech, Language, and Hearing Research.*

（2）学会発表

研究所員名	業績種別	発表タイトル・発表者名　等
☆浅利庸子	学会発表	Asari, Y. (2020). EFL Learners' Use of Formulaic Sequences and Perceived Oral Proficiency. Seoul, Korea (Online)
☆山田　茂	学会発表	Yamada, Shigeru. 2021. “Dictionaries of English Collocations in Japan.” The 9th Intercontinental Dialogue on Phraseology Symposium: Phraseology and Lexicography in ELT. Philological Faculty and International Center for Phraseological and Paremiological Research, The University of Bialystok. 22 March 2021 (Online).
☆篠原靖明	学会発表	Uchida, M., Shinohara, Y., Matsui, T., Ikeda, K., Fujino, H., Tojo, Y., Hakarino, K. (2020). 自閉スペクトラム症児の音韻カテゴリ知覚 [Phonological category perception of children with autism spectrum disorder]. The 31st Annual Meeting for the Japan Society of Developmental Psychology (JSDP 2020), Osaka, Japan.

整理番号　2020-08

研究課題　管理会計におけるリスク分担機能の研究

研究業績の概要・成果発表等

各研究者はそれぞれの上記の研究課題について分担し研究を進めるとともに、研究および分析に必要なデータを収集した。他方で、先行研究を丹念にレビューし、理論的考察を行った。また、必要に応じて質問書調査を実施した。そして、得られた結果を、著書、論文、学会を通じて発表した。

（1）論文・著書

研究所員名	業績種別（論文・単著・共著・研究ノート等）	発表論文名・著書名　等
☆大鹿智基	論文	大鹿智基　統合報告における開示項目の検討　－実証分析からのアプローチ－　『會計』第 199 巻第 1 号　30-43 ページ
☆清水　孝	論文	清水孝・町田遼太・上田巧. 2020.「日本企業の予算管理の改善に関する実態調査」『早稲田商學』第 460 号，1-38.
☆ダニエル ドーラン	論文	Bring on the Engagers: A New Approach to Leadership Development October 5, 2020, online magazine Training Industry
	論文	The Death of “Soft Skills” November 16, 2020, online magazine Training Industry
☆清水信匡	論文	Shimizu Nobumasa, Oura Keisuke, Tamura Akiko Matching Capital Investment Management with Business Strategy Keizai-Shirin (The Hosei University economic review) 88 (4) March 2020. Forthcoming.
☆町田遼太	論文	清水孝・町田遼太・上田巧. 2020.「日本企業の予算管理の改善に関する実態調査」『早稲田商學』第 460 号, 1-38.
	論文	町田遼太・上田巧・妹尾剛好・横田絵理. 「日本企業における中期経営計画のコンフィギュレーション－質的比較分析（QCA）による探索的研究－」『原価計算研究』第 44 号第 2 号，98-111.
	論文	町田遼太・上田巧・牧野功樹・妹尾剛好・新井康平. 2020.「製品原価計算の採用―決定木分析による探求―」『原価計算研究』第 44 号第 2 号，13-148.
☆目時壮浩	著書	Metoki, T. (2020), Impact of Co-Developing Performance Measures with Employees on Organization Performance: A Survey of Local Governments in Japan, pp. 87-104, Chapter6, In Management Control Systems for Strategic Changes: Applying to Open Business and Innovations. Japanese Management and International Studies (JMIS) - Vol.17.
	論文	堀井悟志・目時壮浩（2021）「原価計算制度変革への障害」『原価計算研究』，43 (1)，原価計算研究学会
	論文	横田絵理・目時壮浩（2021）「統合思考を醸成するマネジメント・コントロール・システム」『産業経理』，81 (1)，産業経理協会
◎稲葉喜子	論文	現代監査 2020 巻 30 号　p89-102 「監査法人の継続監査期間と不正会計の発見」
◎海老原崇	学会発表	竹原均・海老原崇「同族企業のブランド戦略：商標権 ポートフォリオデータを用いた実証分析」2020 年度日本ファイナンス学会第 2 回秋季研究大会（オンライン）
◎庵谷治男	論文	庵谷治男（2020）「アメーバ経営の高次学習が組織を改革する」『企業会計』第 72 巻・第 7 号, 30-37.

◎神山直規	著書	非営利法人研究学会出版，「非営利用語辞典」，出版予定は 2021 年夏。
◎辻　正雄	論文	須藤時男，辻正雄「金融資産の保有が資本収益性に及ぼす影響の分析」『産業経理』Vol.80, No.4, 2021 年 1 月
	論文	堀好一，辻正雄「連結納税制度適用による利益調整の実証分析」『管理会計学』Vol.29, No.1, 2021 年 3 月
◎成岡浩一	著書	『IFRS 適用の知見』（中野貴之編著），同文館出版，2020 年。 （担当箇所：第 4 章「資本市場への効果」，第 5 章「受託責任および債務契約」（共著），第 18 章「IFRS 任意適用企業の特性」（共著））
	論文	「研究開発情報の開示とその影響要因に関する研究動向」『会計学研究』第 47 号（近刊）。
◎潘　健民	論文	“Legal Liability, Audit Manpower Allocation, and Audit Quality: Evidence from Japan,” (forthcoming in International Journal of Auditing, with Wuchun Chi, 英語論文，査読付き，SCOPUS, SSCI, MoST Journal Ranking: A-)
	論文	「經理人能力與盈餘管理之關聯（The Association between Earnings Management and Managerial Abilities)」，(forthcoming in 當代會計 [Journal of Contemporary Accounting]，中国語論文，査読付き，MoST Journal Ranking: TSSCI Tier 2，2019 年 JCA 當代會計碩士論文研討會「優等賞」受賞論文，共著者：李佳芮)
	論文	“IFRS Adoption, Earnings Quality, and Investment Efficiency: Evidence from Japan,” Taiwan Accounting Review 16 (2), 219-257 (with Rong-Ruey Duh, Chih-Hsien Liao, and Atsuko Takinishi，英語論文，査読付き，MoST Journal Ranking: TSSCI Tier 2)
◎矢内一利	論文	「戦略特性と利益調整との関係の検証」『青山経営論集』第 55 巻第 4 号 pp.212-233.
◎須藤時男	論文	産業経理　Vol.80　No.4「金融資産の保有が資本収益性に及ぼす影響の分析」 辻正雄先生との共著

（2）学会発表

研究所員名	業績種別	発表タイトル・発表者名　等
☆大鹿智基	学会発表	大鹿智基　統合報告における開示項目の検討　－実証分析からのアプローチ－　日本会計研究学会第 79 回全国大会　統一論題報告　2020 年 9 月 5 日
☆薄井　彰	学会発表	薄井彰，「ディスクロージャー」，日本経済会計学会第 1 回秋季大会，2020 年 12 月 12 日，早稲田大学
☆清水信匡	学会発表	清水信匡　借入依存度から見た経済性評価技法の多様性　日本管理会計学会　2020 年度全国大会　2020 年 8 月 29 日
☆町田遼太	学会発表	「責任会計における管理可能性原則の意義と適用―文献レビューによる検討―」日本管理会計学会 2020 年度年次全国大会，2020 年 8 月 29 日，於：名古屋商科大学.
☆町田遼太	学会発表	三浦紘嵩・荻原啓佑・大西智之・町田遼太・清水孝. 2020. 「サーベイを用いた日本の管理会計研究の妥当性の実態―2005-2019 の文献分析―」日本管理会計学会 2020 年度年次全国大会，2020 年 8 月 29 日，於：名古屋商科大学.
◎海老原崇	学会発表	竹原均・海老原崇「同族企業のブランド戦略：商標権 ポートフォリオデータを用いた実証分析」2020 年度日本ファイナンス学会第 2 回秋季研究大会（オンライン）

◎辻　正雄	学会発表	堀好一，辻正雄「連結納税制度改正が企業の利益調整行動に与える影響」日本管理会計学会 2020 年度年次全国大会，名古屋商科大学大学院，2020 年 8 月 29 日
◎潘　健民	学会発表	“How do Auditors Respond to Accounting Restatements? Evidence on Audit Staff Allocation” 2022 Journal of Accounting, Auditing and Finance Conference (2022 JAAF Conference), Helsinki, Finland, May 2022 (with Wuchun Chi, postponed to 2022 due to Covid19)
◎堀　好一	学会発表	日本管理会計学会 2020 年度年次全国大会自由論題報　2020 年 8 月 29 日　テーマ「連結納税制度改正が企業の利益調整行動に与える影響」共同報告者　辻正雄名古屋商科大学ビジネススクール教授

整理番号　2020-09

研究課題　企業の国際競争戦略の変化と展望

研究業績の概要・成果発表等

コロナの蔓延により対面での研究会は開催できなかったが、適宜 Zoom 等で連絡を取り合って研究を進めた。各研究員の研究としては主に新興市場マーケットにおける国際競争戦略を考察することを目的とした。成果発表は以下の報告欄を参照のこと。

（1）論文・著書

研究所員名	業績種別（論文・単著・共著・研究ノート等）	発表論文名・著書名　等
★谷口真美	論文	"Social Watch's Gender Equity Index" for inclusion in the *Compendium of Diversity, Equity and Inclusion Indices* (Edward Elgar, 2021) edited by Eddy Ng, Christina Stamper, and Alain Klarsfeld.
	論文	Taniguchi, M., & Dass, P. (2020). Diversity Types in a Top Management Team and the Process of Strategic Change. In Academy of Management **Best Papers** Proceedings (Vol. 2020, No. 1, p. 12431). Briarcliff Manor, NY 10510: Academy of Management (Selected as one of the Best Papers IM Division)
	論文	Reichel, A., Afiouni, F., Andresen, M., Apospori, E., Bagdadli, S., Bosak, J., ... Taniguchi, M.& Suzanne, P. (2020). Disabling Effects of Enabling Social Policies on Gender Equality in Organizational HR Development. In Academy of Management Proceedings (Vol. 2020, No. 1, p. 19326). Briarcliff Manor, NY 10510: Academy of Management. (Carolyn Dexter Award Nominee)
	論説	女性活躍どこまで進んだ（上）企業は「なぜ必要か」自問を（経済教室） 谷口真美 日本経済新聞 朝刊 26 - 26 2020 年 7 月 29 日
☆白木三秀	共著	白木三秀&ブライアン・シャーマン著『英語 de 人事：日英対訳による実践的人事』文眞堂，2020 年 4 月，525 ページ。
	単著	「若手グローバル人材に必要なコンピテンシーは何だろうか？」『応用心理学研究』（日本応用心理学会）Vol.45,No.3, March 2020, pp.269-278.
☆池上重輔	共著論文	Ono, K., & Ikegami, J. J. (2020). Mechanism of humanistic leadership for success: lessons from Konosuke Matsushita.Cross Cultural & Strategic Management.
	共著単行本編著	マーケティングの実践教科書（2007）日本能率協会
◎桑名義晴	論文・単著	「異文化を超える日本的サービスへー先進企業の事例からー」『異文化経営研究』第 17 号，2020 年 12 月 28 日，異文化経営学会発行，pp 1-20
◎高井　透	単著	「第 9 章第 1 節：長期存続企業の後発参入戦略」695-706 頁『"後発で勝つ"ための研究開発・知財戦略の立て方進め方』2020 年 6 月　技術情報協会
	単著	「後発優位性を生かす市場創造戦略」31～54 頁『商学集志』第 90 巻第 1 号　2020 年 7 月　日本大学商学部
◎山本崇雄	単著（共同執筆の著書）	「アジア新興国における初等算数教育と日本企業の教育関連ビジネス―すららネットを事例として―」，田中則仁編著『アジアのグローバル経済とビジネス』，pp.186-209，文眞堂，2021 年 3 月刊行予定（全 12 章のうちの 1 章分を執筆）

（2）学会発表

研究所員名	業績種別	発表タイトル・発表者名　等
★谷口真美	学会発表	Taniguchi, M., & Dass, P. (2020). Diversity Types in a Top Management Team and the Process of Strategic Change. Academy of Management Annual Meeting, August 2021, Vancouver Canada (Online).
	学会発表	Reichel, A., Afiouni, F., Andresen, M., Apospori, E., Bagdadli, S., Bosak, J., ... Taniguchi, M.& Suzanne, P. (2020). Disabling Effects of Enabling Social Policies on Gender Equality in Organizational HR Development. Academy of Management Annual Meeting, August 2021, Vancouver Canada (Online).
☆白木三秀	学会発表	白木三秀「日本企業のグローバル人材育成の課題と方向性」経営行動研究学会第 30 回全国大会統一論題報告，2020 年 12 月 12 日（土）
☆長谷川信次	学会発表	“How Employees Shape Turnover Intention” S. Hasegawa, R. Hasegawa, & T. Akiyama, 32nd SASE Annual Meeting, July 19 2020, 査読有り
	学会発表	「コロナパンデミックとグローバルビジネス」長谷川信次，J-L. Mucchielli，国際ビジネス研究学会，2020.11.15，査読有り
	学会発表	“Pandémie de Covid-19 et son impact sur les chaînes de valeur mondiales et le système d’emploi japonais”, Shinji Hasegawa, WasePo Seminar, July 2 2020.
☆エドマン ジェスパー	学会発表	Be, H., Edman, J.& Yamanoi, J.“Entry mode still matters: A replication and extension of Shaver’s endogeneity study.” Academy of Management Annual Meeting. August, 2020
	学会発表	Edman, J., Ertug, G., Cuypers, I. & Aguilera, R.“Nationalism and Institutions” Academy of Management Annual Meeting. August, 2020
	学会発表	Edman, J. “The Future of International Management” Academy of Management Annual Meeting. August, 2020
◎清水さゆり	学会発表	「【フォーラム】ローカル・中小企業の国際ビジネスのパラダイムシフト」共同報告・国際ビジネス研究学会第 27 回全国大会・2020 年 11 月
◎高井　透	学会発表	「グループイノベーションの探索的研究 －ブリ養殖事業の事例を中心に」日本情報経営学会　第 80 回全国大会（拓殖大学）2020 年 7 月 4 日
◎竹之内秀行	学会発表	竹之内秀行ほか（2020）「日本企業の国際経験と立地選択」国際ビジネス研究学会 2020 年度全国大会，愛知大学（主催校）
◎竹之内秀行	学会発表	竹之内秀行ほか（2020）「中国市場への進出における相互依存的立地選択行動と環境の不確実性」日本経営学会関東部会，日本大学（主催校）
◎長谷川礼	学会発表	“How Employees Shape Turnover Intention -Comparison between Japanese Firms and Foreign-owned Firms in Japan” SASE 32rd Virtual Annual Conference, Society for the Advancement of Socio-Economics (University of Amsterdam) (Shinji Hasegawa, Rei Hasegawa, Takashi Akiyama)
◎山本崇雄	学会発表	佐藤幸志・山本崇雄「国際社会起業家論に基づく新興国市場参入：教育関連ビジネスを事例として」国際ビジネス研究学会　第 27 回全国大会（愛知大学，オンライン），2020 年 11 月 15 日

整理番号　2020-10

研究課題　グローバライゼーションと財務会計研究

研究業績の概要・成果発表等

コロナ禍により今年度の活動は当初予定していた海外からの研究者の招聘を断念せざるを得ず、オンラインによる研究会 1 回の開催(会計研究所と鈴木孝則文化課との共催)にとどまった。

（1）論文・著書

研究所員名	業績種別（論文・単著・共著・研究ノート等）	発表論文名・著書名　等
☆秋葉賢一	論文・単著	「IFRS におけるキャッシュ・フロー計算書－IAS 第 7 号改正案を踏まえて－」『Disclosure & IR』Vol.13, 27-33, 2020 年 5 月　査読なし
	論文・単著	「コロナ禍における会計基準の留意点」『金融財政事情』71 (21), 12-15, 2020 年 6 月 1 日号　査読なし
	論文（羽根佳祐氏との共著）	「IFRS における収益認識に関する帰納的検討」『金融研究』39 (3), 65-108, 2020 年 9 月　査読あり
	論文（羽根佳祐氏との共著）	「わが国における企業会計の資本の行方：IFRS との関係から」『金融研究』40 (1), 35-78, 2021 年 2 月　査読あり
	研究ノート・単著	「気になる論点（261）－（284)」『経営財務』税務研究会 No.3452-No.3499, 計 96 頁（各 4 頁×24 回）　査読なし
☆大塚忠義	論文	（共著）「EDA 手法による要介護と相関の高い社会的環境因子の探索」 谷口豊，大塚忠義，大和田孝文　2021.3. 生命保険論集（生命保険文化センター）第 214 巻 pp.35-64
	論文	（共著）「機械学習による要介護と相関の高い社会的環境因子の探索」 大和田孝文，稲垣光隆，谷口豊，大塚忠義　2021.3. JARIP 機関誌 Vol.4 2020 No.2 pp.14-34
☆金子裕子	共著	注文の多い料理店で学ぶ収益認識会計
☆関根愛子	論文	「持続的な価値創造サイクルを支える企業報告モデルの必要性とその課題」 Disclosure & UR 2020.5 vol.13
	論文	「国際評価基準審議会（IVSC）評議員就任にあたって」会計・監査ジャーナル 2021 年 2 月号
	論文	「IFRS AC 会議（2020 年 11 月）出席報告」季刊会計基準第 72 号 2021 年 3 月「IFRS 諮問会議（2020 年 11 月）会議概要」会計・監査ジャーナル 2021 年 4 月号
◎石内孔治	論文	2021 年 3 月「複式簿記：主要簿の役割に関する一考察」『日経大論集』第 50 巻第 2 号
◎金子善行	共著	安藤英義・新田忠誓編著（2020），森田哲彌学説の研究－一橋会計学の展開－，中央経済社，全 15 章 金子善行，第 14 章「実現主義と新収益認識基準－森田学説に依拠して－」245-261
	論文	金子善行（2020）知的財産のライセンシーに係る会計処理の分析視座－新収益認識会計基準におけるライセンサーの会計処理に照らして－，會計，198, 4, 70-83
◎久保幸年	論文	久保幸年（2021），自己株式の取得に関する開示，大原大学院大学『研究年報』第 15 号（2021 年 3 月），19-32
◎辻山栄子	論文	2020 年 4 月号「新収益認識基準と会計基準国際化の功罪」『企業会計』Vol.72, No.4, 17-26 頁.
◎鳥羽至英	共著	『監査の質に対する規制―監査プロフェッション vs 行政機関』国元書房　2021 年 1 月

◎根岸亮平	研究ノート	根岸亮平（2020），資本性金融商品に係る減損 : EFRAG における議論を手掛かりとして，千葉商大論叢，58(1), 179-188
◎藤田晶子	論文	「無形資産会計の現状と課題」『ディスクロージャー&IR』，ディスクロージャー ＆ IR 総合研究所，2020 年 8 月
	論文	「IPR&D の資産化とその影響」『研究所年報』明治学院大学経済学部産業経済研究所，2020 年 12 月
◎藻利衣恵	共著	藻利衣恵（2020），32　自己株式の会計史, 野口昌良・清水泰洋・中村恒彦・本間正人・北浦貴士編著, 会計のヒストリー80，中央経済社，90-92
	共著	藻利衣恵（2020），33　ストック・オプションの会計史, 野口昌良・清水泰洋・中村恒彦・本間正人・北浦貴士編著，会計のヒストリー80，中央経済社，93-95
	論文	藻利衣恵（2020），株式報酬費用認識の要否, ディスクロージャー ＆ IR，ディスクロージャー ＆ IR 総合研究所，13, 47-59
	ワーキング・ペーパー	藻利衣恵（2020），株式報酬費用の期間配分,高崎経済大学経済学会ワーキング・ペーパー 1-11
	論文	藻利衣恵（2020），株式報酬費用の相手勘定, ディスクロージャー ＆ IR，ディスクロージャー ＆ IR 総合研究所，15, 44-55
◎山下　奨	論文	山下奨（2021）．会計主体論と連結基礎概念の関係の再検討．武蔵大学論集. 68 (2・3・4). 15-25

（２）学会発表

研究所員名	業績種別	発表タイトル・発表者名　等
☆秋葉賢一	学会発表	日本会計研究学会　第 68 回関東部会（2021 年 3 月 13 日（土）開催）武蔵大学 わが国における業績報告書の課題－非継続事業に関する損益の区分表示を中心に
☆大塚忠義	学会発表	（招待有）老後生活費への不安感に関する定量的分析 保険学セミナー（大阪）（生命保険文化センター）2020.7.11.
☆関根愛子	学会発表	包括球学術集会 2020 年度研究会　統一論題　財務データの多面的活用 「経営力向上のための財務データの活用」　2020 年 8 月 22 日
◎安　珠希	学会発表	安　珠希（2020），Detecting Inappropriate Accounting: Evidence from Japan，日本管理会計学会 2020 年度年次全国大会，名古屋商科大学
	学会発表	安　珠希（2020），Optimal Contracts with Earnings Management and Internal Control，日本管理会計学会 2020 年度年次全国大会，名古屋商科大学
◎辻山栄子	学会発表	報告者辻山栄子「業績報告をめぐる議論の変遷」日本会計研究学会第 68 回関東部会統一論題「業績報告をめぐる議論の変遷と現状分析」，座長解題。
◎山下　奨	学会発表	山下奨（2020），会計主体論と連結基礎概念の関係の再検討．日本会計研究学会第 79 回大会，北海道大学・北星学園大学

整理番号　2020-11

研究課題　イノベーション創出のメカニズムについてのマルチレベル分析

研究業績の概要・成果発表等

本年は、イノベーション創出のメカニズムについて、個人、企業、制度の観点から精力的に研究を行った。研究成果としては、国際誌に８本の論文が掲載もしくは掲載決定がされており、十分な成果を上げていると考えられる。その中でも Yamaguchi, Nitta, Hara & Shimizu (2021) は、企業研究所への大規模な質問票調査を行い、研究開発のアウトソーシングとその効果についての決定要因を探究した先駆的な研究であり、実務的なインパクトも大きい。また、商学学術院との産学連携の一環として、(株)東京商工リサーチとの提携による未上場企業のデータを利用しての研究計画も進展中であり、来年度以降も本研究部会を継続し、同課題の研究を引き続き行う予定である。

（1）論文・著書

研究所員名	業績種別（論文・単著・共著・研究ノート等）	発表論文名・著書名　等
※山野井順一	論文	Koo, J., Yamanoi, J., & Sakano, T. (2020). Acquisition announcements and stock market valuations of acquiring firms' alliance partners: A transaction cost perspective. *Journal of Business Research*, *118*, 129-140.
	論文	Iguchi, H., Katayama, H., Yamanoi, J."CEOs' Religiosity and Corporate Green Initiatives", Small Business Economics. **Forthcoming**. DOI: 10.1007/s11187-020-00427-8
	論文	Kito, T., Moriya, N. & Yamanoi, J. (2020) Inter-organisational patent opposition network: How companies form adversarial relationships. ***Japanese Economic Review,*** 72: 145-166.
☆藤田　誠	分担執筆	藤田誠「経営戦略論の基本問題」（百田義治編著『現代経営学の基本問題』中央経済社刊所収）
☆大月博司	共編著	『組織のメソドロジー』2020 年，学文社
☆谷本寛治	単著	『研究者が知っておきたいアカデミックな世界の作法―国際レベルの論文執筆と学会発表へのチャレンジ』中央経済社，全 8 章
☆坂野友昭	論文	Koo, J., Yamanoi, J., & Sakano, T. (2020). Acquisition announcements and stock market valuations of acquiring firms' alliance partners: A transaction cost perspective. *Journal of Business Research*, *118*, 129-140.
☆清水　洋	論文・共著	Yamaguchi, Shotaro; Ryuji Nitta; Yasushi Hara and Hiroshi Shimizu. 2021. "Who Explores Further? Evidence on R&D Outsourcing from the Survey of Research and Development." R&D Management, 51(1), 114-26.
	論文・共著	Hori, Keisuke; Yusuke Hoshino and Hiroshi Shimizu. 2020. "Apprenticeship and Product Quality: Empirical Analysis on the Sake Brewing Industry." Management & Organizational History, 15(1), 40-64.
☆三橋　平	論文・共著	グレーヴァ香子・三橋平 2020 数学イノベーション: モデル駆動型イノベーションの特徴と事例研究から見る日本企業の可能性. 一橋ビジネスレビュー, 69 (1).
☆村瀬俊朗	共著	Schweinsberg, M, Feldman, M., Staub, N., van den Akker, O. R., van Aert, R. C. M., van Assen, M. A., Liu, Y., Althoff, T., Heer, J., Kale, A., Mohamed, Z., Amireh, H., Prasad, V. V., Bernstein, A., Robinson, E., Snellman, K., Sommer, S. A., Otner, S. M. G., Robinson, D., Madan, N., Silberzahn, R., Goldstein, P., Tierney, W., **Murase, T.** (with 111 other authors) (In press). Same data, different conclusions: Radical dispersion in empirical results when independent analysts operationalize and test the same hypothesis. Organizational Behavior and Human Decision Processes.

	一般書	村瀬俊朗（2021）. 解説の一章を担当. In Amy C. Edmondson. 恐れのない組織――「心理的安全性」が学習・イノベーション・成長をもたらす. Tokyo: Eiji Press Inc.
☆梁取美夫	論文	Yanadori, Y., Kosaka, G., and Endo, T. 2020. Show me the recognition! Effects of recognition on employee engagement and job embeddedness. Journal of Total Rewards. 2020Q4: 85-96.
◎宇田　理	論文	プロセス・コンサルテーションの生成局面に関する一考察－エドガー・H.シャインの DEC との関わりを中心にして，宇田理，商学集志，査読有，90 巻 1 号，313-331，2020 年
◎潜道文子	共著	陳俊強主編（2020），文化・聚落・共有財：環境變遷下之永續發展，國立臺北大學人文學院，全 16 章 潜道文子，第 12 章「在地方再造中社群資本發揮的作用：以徳島縣神山町的案例為中心」389-430
	論文	潜道文子（2021），「モンドラゴン協同組合企業体の挑戦と起業家育成教育：徳倫理が埋め込まれた人間中心のコミュニティ戦略」，『経営経理研究』119 号
◎万　　涛	論文	万涛, 张莹莹, 大月博司. 科技创新团队基于冲突比例变化的创新管理研究构思与展望[J]. 科技管理研究, 2020, 40(09): 1-5.
◎石毛昭範	共著	全国中小企業団体中央会編（2021），改訂版中小企業組合運営通論，全国中小企業団体中央会，全 3 章 19 節 石毛昭範，Ⅱ－１「運営組織」，10-18 石毛昭範，Ⅱ－２「総会」，18-23 石毛昭範，Ⅱ－３「総代会」，23-24
◎黄　雅雯	論文	黄雅雯（2020），ペンローズの企業成長理論と『資源・能力アプローチ』，経営学史学会年報，第 27 輯，103-112
	論文	Huang Y., and Kawasaki C. (2020), Role of Knowledge Sharing to Bring Innovation: A Case Study of SME's Inter-Organizational Network, Accepted papers for the 15th EIASM Interdisciplinary Conference on Intangibles and Intellectual Capital
◎古田成志	論文・単著	古田成志（2021）「ラディカルな組織変革研究における研究動向に関する考察―断続均衡モデルと継続変革研究を基底とした文献研究―」『中京学院大学研究紀要（経営学部）』第 1 巻，pp. 1-12.（査読有）
◎金　倫廷	論文	金倫廷（2020），経営理念の浸透が企業パフォーマンスに与える影響：組織アイデンティティ視点による事例分析，北海学園大学経営論集, 18, 1, 29-46
◎伊藤泰生	論文	伊藤泰生（2020），コンシューマゲーム産業における産業内多角化と業績の関係性―外部デベロッパーのモデレート効果―，日本経営学会誌，45, 3-14
◎川崎千晶	論文	Yawen Huang and Chiaki Kawasaki (2020) Role of Knowledge Sharing to Bring Innovation: A Case Study of SMEs's Inter-Organizational Network, Accepted papers for the IPDMC 2020, pp.1-10. (proceedings)
◎井口　衡	共著論文	"CEOs' Religiosity and Corporate Green Initiatives", Small Business Economics. DOI: 10.1007/ s11187-020-00427-8
	共著論文	ファミリー企業における事業承継：サーベイ・データの分析をもとに，商工金融，70(11), 5-18.
◎大沼沙樹	著書・共著	矢澤美香子・松野航大編著『役立つ！産業・組織心理学』ナカニシヤ出版，pp.30-46（第 2 章）
○吉澤昭人	論文	ダイバーシティにおける高齢者　―新聞記事の分析を通じて― 査読なし　千葉経済論叢，62 号，123-137，2020 年 6 月 30 日

	論文	高年齢者の組織社会化　－論点の探索－ 査読なし　千葉経済論叢，63 号，119-134，2020 年 12 月 1 日
	論文	ダイバーシティにおける高齢者（２）－2013 年以降の新聞記事分析を通じて－ 査読なし　共栄大学研究論集，19 号，125-135，2021 年 3 月 31 日
○鳥田友起	論文	淺羽茂・井口衡・鳥田友起・山野井順一（2020）「ファミリー企業における事業承継：サーベイ・データの分析をもとに」『商工金融』11 月号，pp.5-18
○鄭　雅方	論文	鄭雅方・井上達彦（2020）「重層的なインタラクションによるプラットフォームの拡張」『早稲田商学』第 458 号，pp.1-20
○高坂啓介	共著	2020 年 4 月「リーダーシップ論」，『役立つ！産業・組織心理学』全 11 章，pp.59-78，ナカニシヤ出版，共同（編者矢澤美香子・松野航大，分担執筆秋保亮太，植田健太，大沼沙樹，笠田真由美，高坂啓介，佐藤律子，澁谷美穂子，松野航大，村瀬俊朗，矢澤美香子）

（２）学会発表

研究所員名	業績種別	発表タイトル・発表者名　等
※山野井順一	学会発表	He, B., Edman, J., & Yamanoi J. 2020. Entry Mode Still Matters: A Replication and Extension of Shaver's (1998) Endogeneity Thesis. The 80th Annual Meeting of the Academy of Management.
☆藤田　誠	学会発表	藤田誠「日本における経営学発展の方向性」日本経営学会第 94 回大会統一論題報告
☆大月博司	学会発表	「企業サステナビリティーに有用なテクノロジーの進化」経営哲学学会第 37 回大会統一論題（サステナビリティと経営哲学）報告
☆谷本寛治	学会発表	"CSR in Japan and A decade Retrospective and Future of JFBS", Online Conference of Russian Business Ethics Network, 12 June.
☆谷本寛治	学会発表	"Post Corona and the New Normal of Business in Society: Interruption and Continuation", Global Corporate Sustainability Forum 2020, online, 28 Oct.
☆谷本寛治	学会発表	"Global CSR Research and Education Prospect", The 3rd International CSR Academic Seminar 2020, online, 2 Dec. "Sustainability Management in Post Corona Era", JFBS Int'l Symposium, Online, 23 Jan.
☆谷本寛治	学会発表	「ソーシャル・アントレプレナーシップ研究のこれまでと今後の展望」企業家研究フォーラム・2020 年度冬季部会大会（オンライン），2021 年 3 月 14 日
☆三橋　平	学会発表	Smirnova, Inna, Markus Reitzig, and Hitoshi Mitsuhashi. 2020. Open innovation communities as complementary assets - Why and where do they work efficiently? A paper presented at the Academy of Management Meeting (Vancouver, Canada, 8/7-8/11).
☆三橋　平	学会発表	三橋立・徳川城治・三橋平 2020 脳卒中初療の Door-to-CT 時間短縮のための低コスト介入法の提案 第 45 回日本脳卒中学会学術集会 オンライン開催【査読付き学会発表】
☆村瀬俊朗	学会発表	村瀬俊朗 & 三浦豊史.（2020）. デジタル世界での従業員の情報共有ネットワーク ―業績に対する効果的活動の探る―. 2020年度組織学会，日本.
☆梁取美夫	学会発表	Kosaka, G., Yanadori, Y., & Endo, T. 2020. Stars in teams: Their implications for non-stars' work autonomy and job performance. Academy of Management. Annual Conference.

◎小沢和彦	学会発表	小沢和彦（2020）「戦略的転換・組織変革研究におけるモメンタム仮説」経営戦略フォーラム（経営戦略学会主催），早稲田大学。
◎宇田　理	学会発表	企業サステナビリティの源泉: それは技術なのか，それとも戦略の構えなのか?，宇田理，経営哲学学会第 37 回全国大会，2020 年
◎潜道文子	学会発表	・Li, Y., and Sendo, A. (2020), “Accounting inscription in social significance: A case study of a biodiversity conservation project to connecting Borneo and Japan,” Critical Perspectives on Accounting (CPA2020), (Online).
◎潜道文子	学会発表	・Sendo, A. (2020), The Challenge of “Workplace Reform” in Japan in the Face of COVID-19,” Post-Corona Society and Business Ethics: From Egoism to Altruism, AI Ethics and Management Laboratory (Online)
◎潜道文子	学会発表	・Sendo, A. (2020), The Ethical Consumption and Business Ethics in Japan,” Roundtable Discussion on Consumerism in Post-Pandemic Era, International Islamic University Malaysia, Kulliyyah of Economics & Management Sciences (Online)
◎黄　雅雯	学会発表	Huang Y., and Kawasaki C. (2020), Role of Knowledge Sharing to Bring Innovation: A Case Study of SME’s Inter-Organizational Network,15th EIASM Interdisciplinary Conference on Intangibles and Intellectual Capital, Organized Virtually
◎黄　雅雯	学会発表	黄雅雯（2020），ペンローズの企業成長理論の再検討と現代企業への適応，日本経営学会第 94 回大会，オンライン開催
◎黄　雅雯	学会発表	秋野晶二，菊池航，山中伸彦，黄雅雯（2020），グローバルな大量生産体制の転換とガバナンスに関する研究，工業経営学会第 35 回全国大会（WEB）大会
◎黄　雅雯	学会発表	菊池航，秋野晶二，山中伸彦，黄雅雯（2020），スマートフォン産業におけるブランドメーカー，EMS，サプライヤーの企業間関係―日系中小製造企業の事例―，工業経営研究学会第 35 回全国大会（WEB）大会
◎金　倫廷	学会発表	金倫廷(2020)，市場型コントロール・システムと従業員アイデンティフィケーション，経営戦略学会，経営戦略フォーラム（第 20 回大会の代替），オンライン開催
◎伊藤泰生	学会発表	Wonsang Ryu, JaSeung Koo, Taiki Ito, Seung Hun Han(2020),The Impact of Immense Natural Disasters on Firm Search: Evidence from a Natural Experiment, 2020 Strategic Management Society, London, UK (Virtual)
◎川崎千晶	学会発表	Yawen Huang and Chiaki Kawasaki (2020) Role of Knowledge Sharing to Bring Innovation: A Case Study of SMEs's Inter-Organizational Network, 27TH IPDMC: Innovation and Product Development Management Conference, Online
◎大沼　沙樹	学会発表	秋保亮太・大沼沙樹・村瀬俊朗「外部環境に対する認知の相違が部門間連携に及ぼす効果」2020 年度組織学会研究発表大会，2020 年 6 月.
○鄭　雅方	学会発表	児山希・鄭雅方「消滅可能性都市に誕生した起業のエコシステム －福岡市と鶴岡市の比較分析－」2020 年組織学会研究発表大会（査読付）
○鄭　雅方	学会発表	鄭雅方・井上達彦「重層的なインタラクションによるプラットフォームの拡張」2020 年日本経営学会全国大会（査読付）
○鄭　雅方	学会発表	井上達彦・鄭雅方・坂井貴之・近藤将大「投資家と対話の手段としてのビジネスモデル－知られざる中国企業の成長の論理から学ぶ－」2020 年組織学会年次大会

整理番号　2020-12

研究課題　社会経済システムの局所化に関する経済学理論とその応用

研究業績の概要・成果発表等

当分科会では、研究課題を対象とする経済学理論の構築とその応用を目的とする。通常、佐々木宏夫（科学研究費）基盤研究 A プロジェクト「太平洋島嶼国の貨幣と市場制度の生成と発展に関する研究：理論と実験」によるセミナーや「ミクロネシア・ワークショップ」、CTWE (Contract Theory Workshop East)、総合研究機構「水循環システム研究所」研究会などと共催し、学内外あるいは国内外を問わず、関連する研究者によるセミナーを通常月 2 回程度の頻度で開催する。ただし、COVID19 の影響により、今年度のセミナーは秋学期のみ、オンラインで開催された。研究会の概要は以下の通りである（敬称を省略する）。

1.　11 月 13 日（金）

及川　浩希（早稲田大学　社会科学部 教授）

Value Limit Price (joint work with Hugo Hopenhayn)

2.　11 月 27 日（金）

菊地　雄太（早稲田大学　大学院商学研究科　講師）

Joint Identification and Estimation of Firm-Level Markup and Production Function (joint work with Susumu Imai, Neelam Jain, Lucas Navarro, and Hiroto Suzuki)

3.　12 月 11 日（金）

原　　和弘（FGV EPGE Assistant Professor）

Incomplete Preferences under Uncertainty: Multiplicity in Ambiguous Beliefs

4.　1 月 8 日（金）

富　　蓉（早稲田大学　商学部　講師）

The best of both worlds? The economic effects of a hybrid fee‐for‐service and prospective payment reimbursement system

5.　2 月 5 日（金）

亀井　憲樹（ダラム大学ビジネススクール　経済・ファイナンス学科研究センター　准教授・実験研究センター長）

Free Riding and Workplace Democracy –Heterogeneous Task Preferences and Sorting (with Thomas Markussen)

6.　2 月 5 日（金）

髙橋　　達（城西大学　経済学部　助教）

都市鉄道の混雑緩和と利用促進が温室効果ガスの排出量に与える影響

（1）論文・著書

研究所員名	業績種別（論文・単著・共著・研究ノート等）	発表論文名・著書名　等
☆片岡孝夫	論文	Takao Kataoka and Yoshihiro Takamatsu, “Optimal labor income taxation and social security programs when private savings are unobservable”, WASEDA BUSINESS & ECONOMIC STUDIES 2021, NO. 55
☆久保克行	論文	久保克行　内ヶ﨑　茂　吉田宏克　高木　悠　岩田　航（2020）報酬ガバナンス・コーポレートガバナンスと経営者報酬 ―経営者報酬サーベイ結果から― 旬刊 商事法務　No.2238（8 月 5・15 日号）
	論文	久保克行　内ヶ﨑茂　鈴木啓介　中川和哉　山内浩嗣　瀬古進　霧生拓也（2021）日本企業のトップマネジメントの現状と改革に向けた提言〔上〕日本企業のトップマネジメントチーム・取締役会改革

		の方向性　旬刊 商事法務　No.2253（2 月 5 日号）
	論文	久保克行　内ヶ﨑茂　村澤竜一　山内浩嗣　瀬古　進　霧生拓也（2021）日本企業のトップマネジメントの現状と改革に向けた提言〔下〕取締役スキルの現状分析と取締役会スキル・マトリックスのあり方　旬刊 商事法務　No.2254（2 月 15 日号）
	研究ノート	久保克行　内ヶ﨑茂　吉田宏克　高木　悠　岩田　航（2020）2019 年経営者報酬サーベイ結果の傾向と分析　資料版／商事法務 436 号（2020.07）
☆片山　東		Iguchi, H., Katayama, H., and Yamanoi, J. (2021), CEOs' religiosity and corporate green initiative, *Small Business Economics*. https://doi.org/10.1007/s11187-020-00427-8
☆大門　毅	論文	Daimon (2020), "The Historical Background and Role of Japan's Strengthening of Support for the Rule of Law" Journal of US-China Public Administration 17(6) 265 - 274
	論文	Daimon (2020), "Sino-Japanese Competition over the 'aid market' in ASEAN: Political Tensions and Consequences" Foreign Policy Review 13 58 - 73
	論文	Daimon (2021), "Nexus of Military and Economic Cooperation: Japanese Challenges in Afghanistan and Iraq" Journal of US-China Public Administration 18 (1) , March 2021, accepted
	論文	大門（2021）「ポストコロナ禍の地域間協力と新世界秩序の模索」16-18 頁 ワセダアジアレビュー23 号
	論文	Daimon (2021), " 'Fragility Trap' As A Central Concept of Conflict Risk An Analytical Overview of Timor-Leste" Journal of Asian Peacebuilding, March 2021, accepted
	分担執筆	廣野編（2021）『一帯一路は何をもたらしたのか』（勁草書房） 大門（2021）「第 2 章　一帯一路と日本―「互恵的援助競争」の可能性」
☆豊泉　洋	論文	Field, J. and Toyoizumi, H., The evolution of eusociality: no risk‐return tradeoff but the ecology matters. Ecological Letter 23: 518-526. doi:10.1111/ele.13452
☆伊藤秀史	共著連載	【連載】関係的契約の経済学―長期継続的関係が支える自己規律のメカニズム，経済セミナー．2020 年 8・9 月号より連載開始．現時点で 2020 年 10・11 月号（第 2 回），2020-2021 年 12・1 月号（第 3 回），2021 年 2・3 月号（第 4 回）まで出版済
☆加納和子	共著	経済セミナー編集部編（2020），進化する経済学の実証分析，日本評論社 今井晋，加納和子，南橋尚明「産業組織論」p.133-140
☆谷口みゆき	論文	Taniguchi, M. (2021) The Impact of New Public Management on the efficiency of Japanese museums, Asian Economic Journal, forthcoming
☆富　蓉	論文	Fu, R., Shen, Y., and Noguchi, H. (2020). The Best of Both Worlds? The Economic Effects of a Hybrid Fee-For-Service and Prospective Payment Reimbursement System. Health Economics, forthcoming. doi.org/10.1002/hec.4205
	論文	Shen Y., Fu R., Noguchi, H. (2021) "COVID-19's Lockdown and Crime Victimization: The State of Emergency under the Abe Administration in Asian Economic Policy Review has the following publication status", Asian Economic Policy Review, forthcoming. doi.org/10.1111/aepr.12339
◎木口武博	論文	池田晃彦，木口武博，倉田致知，江向華，呉綺（2021），大学生の非言語能力に関する学習効果とその規定要因―大学初年次向け必修科目「数的処理」を事例として―，京都先端科学大学経済経営学部

		論集，第 2 号，119-135.
◎橘　洋介	共著論文	施策立案における事業者側と住民側の意識形成の定量的把握 －中国地域におけるドローン活用事業の調査を事例に－公益事業研究 72 巻 1 号
◎張　　艷	論文・単著	Zhang Y. (2020), China's Economic Growth and Financial Development after Reform and Opening-up, Advances in Economics and Business, 8, 6, 321–332　Horizon Research Publishing
◎友原章典	論文	Tomohara, A. (2020), Do migration networks worsen trade deficit? Evidence from the United States and Germany, The World Economy, forthcoming The World Economy, 2020 (forthcoming).
	論文	Tomohara, A. (2020), How do bidirectional migration and multinational business networks affect Japanese international royalty and license revenues? International Journal of Finance & Economics, forthcoming
	単著	友原章典，(2020)，国際経済学へのいざない　コンパクト，日本評論社
◎成川康男	共編	Vicenç Torra, Yasuo Narukawa, Jordi Nin, Nuria Agell (2020) Modeling Decisions for Artificial Intelligence: 17th International Conference, MDAI 2020, Sant Cugat, Spain, September 2–4, 2020, Proceedings (Lecture Notes in Computer Science) Springer
◎横溝えりか	論文	「WTO 協定において自由貿易地域創設の域内要件および域外要件は，自由貿易地域創設目的の十分条件になっているか」『法学紀要』第 61 巻　pp287-312，日本大学法学研究所・日本大学政経研究所，2020 年 3 月

（2）学会発表

研究所員名	業績種別	発表タイトル・発表者名　等
※高瀬浩一	学会発表	高瀬浩一（2020），Does a new accounting report system matter to foreign aid allocation?，国際開発学会，2020 年度春季大会，龍谷大学，オンライン
☆大門　毅	学会発表	大門（2020）「新型コロナウィルスの脅威下における日中の政策協力：緊急提言」（アジア政経学会）
		大門（2020）「援助型融資は「融資の罠」を助長するか」（国際開発学会）
		Daimon(2020), " China-Japan Competition or Possibilities for Cooperation? Debates On Belt and Road Initiative and Free and Open Indo-Pacific Initiative" (AAS-in-Asia)
		Daimon (2020), "Sino-Japanese "aid competition" in Southeast Asia and Beyond: Case of High Speed Rail" (International Conference on Business and Commerce)
		大門（2020）「融資型援助は「債務の罠」を助長するのか」（日仏経済学会）
		大門（2021）「アラブの春とはなんだったのか？チュニジアの視点」（政治経済学会）
☆パク　サンジュン	学会発表	Baak, S, T. Kim, M. Seo, and J. Yoon, (2021), Impact of Reforestation on Stabilization of Water Level of River in Korea, 日本経済学会 2020 年度春季大会
☆菊地雄太	学会発表	Summer Workshop on Economic Theory (SWET) 2020, Joint Identification and Estimation of Firm-Level Markup and Production Function, 小樽商科大学
☆谷口みゆき	学会発表	Taniguchi, M, (2020). Has Income Inequality Caused Consumption Inequality of Art and Culture in Japan?, 文化経済学会＜日本＞2020 年度春季大会，オンライン
	学会発表	Taniguchi, M, (2020). Has Income Inequality Caused Consumption Inequality of Art and Culture in Japan?, the 90th International Atlantic Economic Conference, Virtual

☆富　　蓉	学会発表	Fu, R. (2020), The Best of Both Worlds? The Economic Effects of a Hybrid Fee-For-Service and Prospective Payment Reimbursement System. Health Economics, 6th IRDES-DAUPHINE Workshop, Paris (virtual)
◎張　　艷	学会発表	Zhang Y. (2021), A Comparative Analysis on China, Japan and the U.S. Stock Markets and Global Financial Crisis, 2021 Virtual International Conference of Western Economic Association International

整理番号　2020-13

研究課題　生産組織の選択をめぐる労使関係と経済史

研究業績の概要・成果発表等

2019 年度に引き続いて本年度も微視的な企業データに基づく分析を中心に進めた。コロナ禍で資料調査が困難になる中、醸造業では昨年度発掘した東北地方の醤油経営資料（青森県野辺地町、八戸市など 3 社）についてできる限り、追加調査と撮影を行った。その成果は研究協力員小杉亮介の論文等に現れ始めている。醸造業以外の地方在来産業についても、「現代備後地域経済の形成過程に関する総合的研究」の共同研究成果が刊行されるなど着実に分析が進展している。

さらに、19 世紀末イギリスにおける救貧の意味、オイルショックの国際金融に与えた影響、働く人の仕事と健康や管理職の職場マネジメントなど、分科会構成員のそれぞれの専門に即した実証研究にも着手している。今後はこれまでの成果を基盤として「生産組織」の歴史的推移を巨視的・計量的に把握し、併せてその選択に関わる生産技術、労働市場などの条件を多角的・歴史的に把握することを試みたい。

（1）論文・著書

研究所員名	業績種別（論文・単著・共著・研究ノート等）	発表論文名・著書名　等
☆池尾愛子	論文・単著	「天野為之と東洋経済新報」『早稲田商学』459: 1-50, 2020 年 9 月.
☆小倉一哉	研究ノート	「第 2 章 労働時間をめぐる動向」労働政策研究・研修機構編『働く人の仕事と健康，管理職の職場マネジメントに関する調査結果』pp.20-35. 2021 年 3 月（予定）
	研究ノート	「第 4 章 管理職の働き方と職場マネジメント」労働政策研究・研修機構編『働く人の仕事と健康，管理職の職場マネジメントに関する調査結果』pp.40-53. 2021 年 3 月（予定）
☆矢後和彦	論文	“Before the ‘locomotive’ runs: the impact of the 1973–1974 oil shock on Japan and the international financial system”, *Financial History Review*, vol.27, special issue 3, November 2020, pp.418-435.
	論文	“Convergence and Divergence over the Growth Paradigm: The OECD Working Party 2 and the Japanese “Doubling National Income Plan” (1961-70)”, *Revue Economique*, vol.71, no.4, 2020, pp.697-713.
	論文	「累積債務問題の発見―OECD 開発援助委員会とその周辺（1961～77 年）―」成城大学『経済研究』230 号，2020 年 12 月，9-27 頁
	共著	"La Banque mondiale et la décolonisation française (1946-1968)", in Danièle Fraboulet et Philippe Verheyde (dir.), *Pour une histoire sociale et politique de l'économie, hommages à Michel Margairaz*, Paris, Éditions de la Sorbonne, 2020, pp.133-150.
◎柳澤　遊	共著	張楓編『備後福山の社会経済史―地域がつくる産業・産業がつくる地域』日本経済評論社，2020 年，第 5 章「福山中心市街地商店街の展開過程」197-230 頁を分担執筆。
	共著	恒木健太郎ほか編『歴史学の縁取り方―フレームワークの史学史―』東京大学出版会，2020 年，「コラム 2　帝国主義史研究とフレームワーク」71-83 頁を分担執筆。
◎井上雄介	社報	『情報センサー』11 月号「VAR 分析の理論および特徴」“Theory and characteristics of VAR analysis”
	社報	『情報センサー』2 月号「VAR 分析の利用事例」“VAR analysis use case”

（２）学会発表		
研究所員名	業績種別	発表タイトル・発表者名　等
☆池尾愛子	学会発表	「天野為之（1861-1938）: 日本で最初の近代経済学者（マクロ経済学者）」社会経済史学会第 89 回（2020 年度）全国大会，2020 年 5 月に神戸大学で開催が予定されていたが，中止。 ‘Tameyuki Amano as Editor of the *Tōyō Keizai Shimpō* (Oriental Economist),’Modern Japan History Workshop, Zoom (Tokyo), January 22, 2021. 「天野爲之の経済思想と経済政策：彼の知的環境の考察を含めて」日本経済思想史学会第 31 回全国大会，Zoom，2021 年 3 月 13 日。（2010 年 6 月の札幌大会が延期されていた。） 「天野為之と東洋経済新報：朝河貫一との接点を意識して」第 120 回朝河貫一研究会，Zoom，2021 年 3 月 27 日。
◎安元　稔	学会発表	「19 世紀末期英国北東部製鉄工業地域の救貧 ― workhouse は労働者のセーフティ・ネットか？」（学習院大学「グローバル経済史セミナー」）2020 年 12 月 10 日

２．事業活動

１．運営

(1) 運営委員会

第 1 回　2020 年 4 月 15 日(水)

1) 2020 年 9 月採用新規助手嘱任の件
2) 2020 年度研究員人事の件
3) 2020 年度事業計画書・予算書（案）の件

第 2 回　2020 年 5 月 20 日(水)

1) 所長候補者選挙の件
2) 運営委員選挙の件
3) 2019 年度事業実績報告書・決算書（案）の件
4) 2020 年度分科会研究費配分（案）の件

臨時　2020 年 7 月 1 日(水)

1) 産業経営研究所長候補者の件

臨時　2020 年 7 月 29 日(水)

1) 副所長嘱任の件

第 3 回　2020 年 10 月 14 日(水)

1) 各種委員嘱任の件
2) 研究員人事の件

第 4 回　2020 年 11 月 18 日(水)

1) 研究員人事の件

第 5 回　2020 年 1 月 15 日(水)

1) 研究員人事の件
2) 2021 年度研究分科会募集・継続の件
3) 2020 年度研究業績評価の件
4) 産研ジャーナルランクリスト改訂の件

第 6 回　2020 年 3 月 10 日(水)

1) 研究員人事の件
2) 助手学外兼職の件

２．研究活動

（1）研究分科会の設置

2020 年度は 13 分科会を設置し、研究会等を随時開催した。各分科会の報告は、『所報』第 60 号（電子媒体）に掲載する。

（2）産研講演会、産研アカデミック・フォーラムの開催

産研講演会（14 回）

日	講　師	テーマ
6 月 11 日（木） 11 号館 第 3 会議室 （オンライン開催）	新貝　憲弘 氏 東京新聞 外報部デスク	新型コロナが映し出す中国
7 月 20 日（月） （オンライン開催）	渡辺　　周 氏 東京外国語大学 世界言語社会教育センター 助教	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar 撤退の意思決定に役員が与える影響：不良債権処理に関する組織論研究
10 月 12 日（月） （オンライン開催）	スズキ　トモ 商学学術院 教授	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar 関西経済連合会レポート：成熟経済・社会の持続可能な発展のためのディスクロージャー・企業統治・市場に関する研究調査報告書
10 月 26 日（月） （オンライン開催）	宮川　大介 氏 一橋大学 国際企業戦略研究科 准教授	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar Disagreement between Human and Machine Predictions
11 月 2 日（月） （オンライン開催）	鈴木　健嗣 氏 一橋大学大学院 経営管理研究科 教授	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar Corporate culture in Japanese firms: survey analysis
11 月 13 日（金） （オンライン開催）	飯塚　　容 氏 中央大学 文学部 教授	中国におけるコロナ禍――方方『武漢日記』を読む
11 月 19 日（木） （オンライン開催）	倉田　　徹 氏 立教大学 法学部 政治学科 教授	香港国家安全維持法と東アジアのゆくえ（仮題）
11 月 23 日（月） （オンライン開催）	Giang Nguyen 早稲田大学 政治経済学部 講師	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar The Impact of JOBS Act on Venture Capital Investments

11 月 30 日（月） （オンライン開催）	安　真理子 氏 早稲田大学 経営管理研究科 客員講師 /PhD management course, University of Edinburgh, UK	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar
12 月 3 日（木） （オンライン開催）	谷口　　豊 氏 ジブラルタ生命保険会社 収益管理チーム チームリーダー	EDA 手法の要介護認定率の社会的環境因子についての考察
12 月 17 日（木） （オンライン開催）	劉　セイラ 氏 声優（㈱青二プロダクション所属）	言葉の壁をぶち壊せ ―二か国語声優・劉生らの日中比較文化論
12 月 21 日（月） （オンライン開催）	野澤　良雄 氏 Assistant Professor, HKUST Business School, Hong Kong University of Science and Technology, Hong Kong	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar OPENING UP “ALL-INSIDER” BOARDS: EVIDENCE FROM JAPAN
1 月 18 日（月） （オンライン開催）	大村　敬一 氏 早稲田大学 名誉教授	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar 金融ビジネスと金融システム―金融深化の罠
1 月 25 日（月） （オンライン開催）	山田　和郎 氏 立命館大学 経営学部 准教授	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar 経営者予想の波及効果

(3) 受託共同研究

機関名：独立行政法人日本学術振興会

研究者：三橋　　平 教授

「経営学分野に関する学術研究動向 ― 組織論・戦略論研究の新たな潮流」

(4) 産業経営研究所若手研究員支援

2020 年度より、産業経営研究所若手研究員支援制度（以下「本制度」という。）を実施した。本制度は若手研究員の国内外での研究活動を支援することを目的とした助成制度である。本制度により、国内外での研究を目的とした活動（学会、国際会議、国際コンソーシアム参加、シンポジウムでの参加・発表）に伴う旅費・交通費・参加費、研究に関連する書籍（電子ジャーナルを含む）購入費を支援する。2020 年度は新型コロナウイルスの影響により、学会等がキャンセルになったりし、申請が少なかった。2021 年度は、「産業経営研究所アーリーキャリア研究支援制度」と名称を変更し、周知を徹底し、さらに予算額を増やし、若手研究者の研究活動を促進する予定である。

３．教育活動

(1) 公開講座

研究成果を学生諸君にも発表し、教育への還元を図るため、随時公開講座を行うこととしているが、2020 年度は実施しなかった。

(2) 受託研修

以下の研修事業を受託・実施した。

東京都　観光経営人材育成プログラム
コーディネーター：長谷川惠一 教授

(3) ビジネスプランコンテスト

今年度は、従来の一般募集に加え、商学部設置科目のウエルインベストメント株式会社提携講座「起業家養成講座Ⅱ」と連携し、同科目履修者からもビジネスプランを募集した。起業家養成講座Ⅰ履修者からの応募約 258 件と一般募集の約 43 件のビジネスプランの中から厳正な審査・選考の結果、プレゼンを行うファイナリスト計 6 組のビジネスプランを選出した。Zoom によるプレゼンテーションには 503 名の聴講参加があり、聴講者の方に優秀な作品と思われるプランに投票した。（投票総数 468 名）

４．図書・資料の収集

外国雑誌の継続購入を優先し、内外統計書、社史、団体史、各種 CD-ROM 等を収集した。

2020 年度　産業経営研究所　図書・資料収集状況

内 訳		購入	寄贈	合計
図　書 ［冊］	統計書	175	14	189
	社 史	0	3	3
	その他	0	0	0
	［ 合 計 ］	175	17	192
雑 誌・和 ［種類数］		0	0	0
雑 誌・洋 ［種類数］		20	0	20
CD-ROM/DVD ［種類数］		6	1	7
E-BOOK・和［タイトル数］		0	0	0
E-BOOK・洋［タイトル数］		31	0	31
DB［種類数］		7	0	7

５．主要業務

下記業務を分担した。

【所長】研究所総括、管理、運営

2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日　　高瀬　浩一

【副所長】研究所運営のための企画、立案、研究成果の刊行、図書・資料整備

2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日　　村瀬　俊朗

井上　達彦　　産業経営編集委員長　『産業経営』の編集統括

【事務長】研究所事務責任者

2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日　　鈴木　　勉

以上

３．役職者・運営委員・助手

2020.4.1～2021.3.31

所　　長　　高瀬　浩一
副 所 長　　村瀬　俊朗

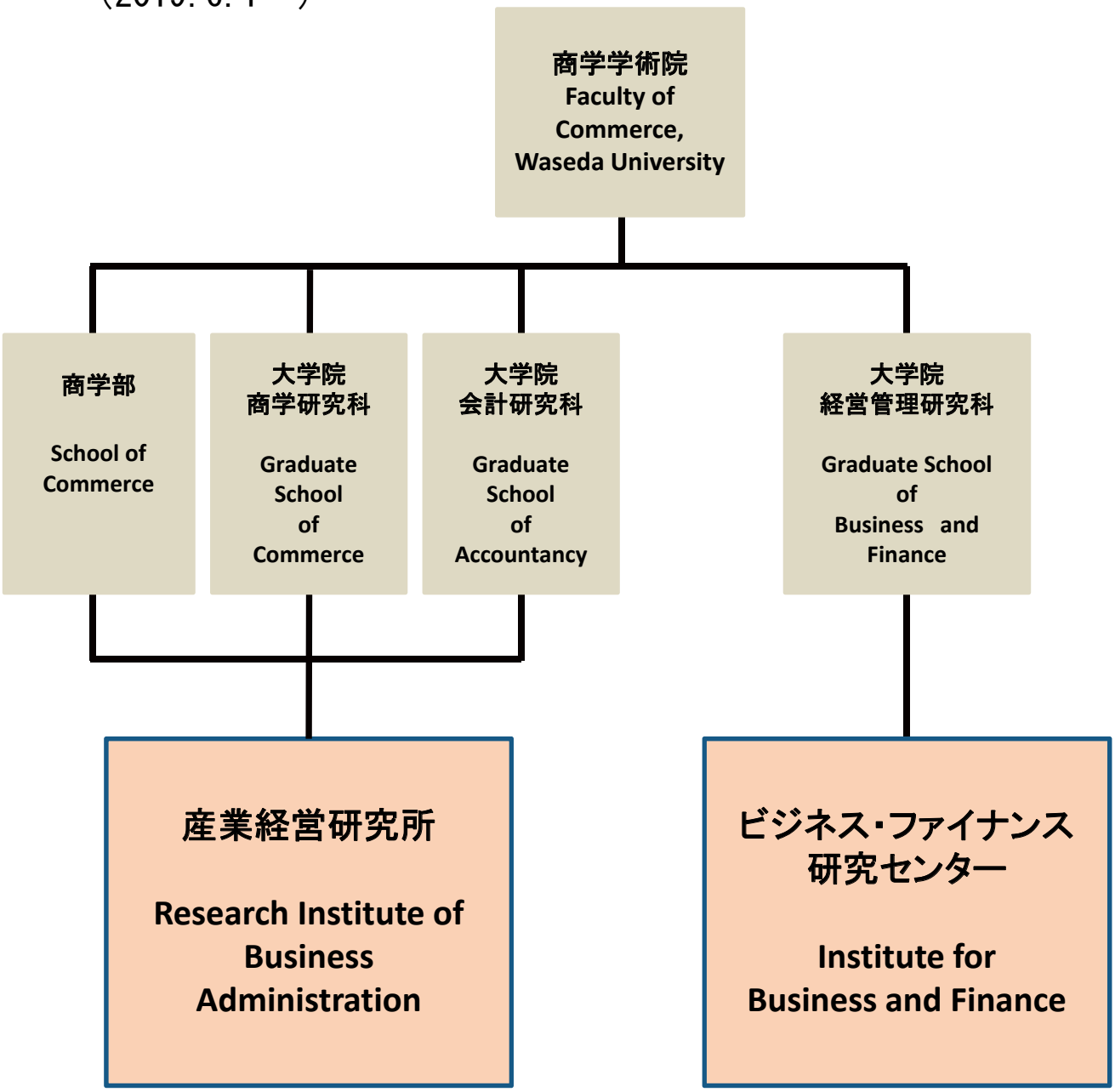
運営委員

秋葉　賢一	嶋村　和恵	中村　信男	八重倉　孝
井上　達彦	清水　　孝	長谷川惠一	山野井順一
小川　利康	鈴木　孝則	花井　俊介	横田　一彦
奥村　雅史	高瀬　浩一	広田　真一	中村　信男
片山　　東	武井　　寿	藤田　　誠	横山　将義
川村　義則	谷川　寧彦	村瀬　俊朗	
安原　　晃	中出　　哲	森田　　彰	

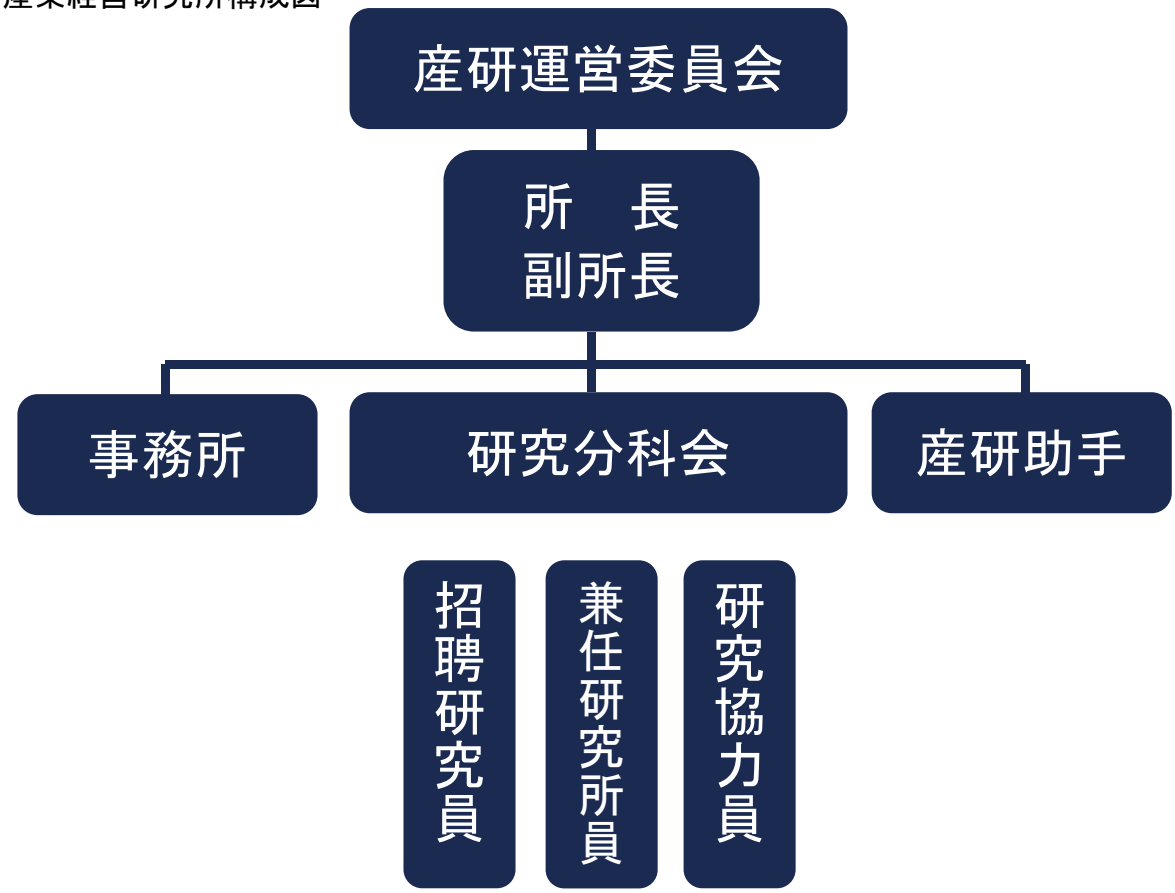
助手

鳥田　友起　　（任期 2018.9.1～2021.8.31）
高坂　啓介　　（任期 2019.9.1～2022.8.31）
金　　鑫　　（任期 2020.4.1～2023.3.31）

４．商学学術院構成図
（2019.6.1～）



産業経営研究所構成図



運営委員会	商学学術院を本属とする専任教員のうち商学部主担当および会計研究科主担当ならびに、商学研究科商学専攻主担当の兼任研究所員のうち役職者、研究分科会主任者、互選委員によって構成される研究所の意思決定機関。
兼任研究所員	本大学の商学部、会計研究科、商学研究科商学専攻の専任教員、特任教授、任期付き教員および研究分科会参加者である他学術院の専任教員。
招聘研究員	事業計画の実施上必要と認められるときに、研究分科会の代表者の推薦に基づき、研究・調査に協力する者。
研究協力員	大学院修士課程修了者またはこれと同等以上の者で、研究分科会の推薦に基づき、研究・調査に協力する者。

５.『産業経営』投稿規程・執筆要領

『産業経営』投稿規程

2015年3月4日改訂

1. 【投稿原稿の内容】

(1) 投稿原稿は、産業経営に関する問題をテーマとした研究とする。
(2) 投稿原稿は、未公刊であり、かつ、他誌で査読中のものであってはならない。
(3) 投稿原稿に使用する言語は、日本語または英語とする。

2. 【投稿原稿の種類】

(1) 投稿原稿は、研究論文または研究ノートとする。
(2) 投稿時に論文として申請したものであっても、編集委員会が委嘱した審査員の審査に基づき、研究ノートとすることを掲載条件とする場合がある。

3. 【投稿料】

投稿料は、無料とする。

4. 【原稿の投稿】

(1) 投稿者は、投稿締切日までに、原則として、所定のファイル形式によって保存した原稿を指定されたメールアドレスに送付するものとする。
(2) 投稿の締切日は、原則として、1月末日および7月20日とし、年２回審査を実施する。

5. 【掲載決定論文の原稿データの送付】

(1) 編集委員会が委嘱した審査員の審査に基づき、投稿原稿の掲載が決定した場合、編集委員会より、投稿者にその旨を通知する。
(2) 上記(1)の通知を受けた者は、審査員または編集委員会が指摘した事項を加筆・修正のうえ、所定の期日までに、原則として、所定のファイル形式によって保存した原稿を指定されたメールアドレスに送付するものとする。

6. 【掲載決定論文の校正】

(1) 掲載決定論文の執筆者校正は、原則として、初校のみとする。
(2) 1月末日締切の論文および7月20日締切の論文の校正は、各々原則として6月および12月までに完了予定とする。

7. 【刊行】

(1) 「産業経営」は毎年１回６月に刊行し、原則として前年7月20日締切分および当年1月末日締切分のうちの掲載決定論文を掲載する。
(2) 掲載決定論文は、校正が完了し次第、早稲田大学産業経営研究所のウェブサイトにおいて「産業経営」の掲載予定号を明記して公開する。

8.【抜刷等の送付】

(1) 当研究所および編集委員会は、投稿者に原稿料を支払わないが、『産業経営』刊行後、冊子本体5部および抜刷30部を無料で送付する。
(2) 掲載原稿および抜刷には、投稿受付日および採択決定日を記載する。

9.【著作権】

(1) 掲載論文の著作権は、当研究所に帰属するものとする。
(2) 『産業経営』刊行後、著者は掲載論文を複製・転載の形で利用することができる。ただし、その場合、著者はその旨を当研究所所長宛に書面で通知し、複製・転載先には初出を明記しなければならない。

10.【その他】

投稿締切日、投稿規程、執筆要領等を改訂した場合は、これらを早稲田大学産業経営研究所のウェブサイト上にて公開するものとし、原則として、投稿者に個別に通知は行わない。

【投稿先および問い合わせ先】

早稲田大学産業経営研究所『産業経営』編集委員会
〒169-8050　東京都新宿区西早稲田1-6-1
TEL：03-3203-9857
FAX：03-3202-4274
E-mail：businessreview@list.waseda.jp
URL：https://www.waseda.jp/fcom/riba

『産業経営』執筆要領

2015年3月4日改正

1. 【使用言語】

(1) 使用言語は、日本語または英語とする。

(2) 投稿者の母語以外の言語を使用する場合は、投稿前にネイティヴチェックを受けるものとする。（下記3.【投稿者等に関する記載】(2)の要旨を含む)。

2. 【書式】

(1) 原稿は、原則として、Microsoft Wordにより作成するものとする（手書原稿は受理しない)。

(2) 原稿は、A4版用紙に横書きで作成するものとする。

(3) 原稿は、1ページあたり43字×32行（刷り上がりの本文の字数および行数）で作成することが望ましい。

(4) 原稿の本文、注、参考文献のフォントは10.5ポイント以上とする（査読のため)。

(5) 現行の図表のレイアウトは、原則として、下表の通りとする。

区分	フォント	サイズ	配置等
図表見出し	ゴシック体(太字)	8ポイント	中央揃え（図表の上につける）
図表内の文字･データ	明朝体	8ポイント	執筆者指定
図表単位等	明朝体	7ポイント	執筆者指定
図表下注・出所	明朝体	7ポイント	右寄せ

※節・項の区切りおよび図表の前後には１行ずつスペースを入れること。

※ただし、図表の書式は、誌面構成を考慮して、編集委員会が変更する場合がある。

(6) 原稿は、原則として、下記3.【投稿者等に関する記載】を除き、論文の場合は54,000字以内、研究ノートの場合は14,000字以内に本文、図表、注および参考文献を収めるものとする。なお、図表については、(図表に要する行数）×43字を当該図表の文字数とみなす。

3. 【投稿者等に関する記載】

(1) 投稿原稿には、次の内容を記載した表紙をつけるものとする。

(a) 主題（タイトル）および副題（サブタイトル）

(b) 論文または研究ノートの別

(c) 著者全員の氏名および所属

(d) 投稿者（著者が単数の場合は当該著者。著者が複数の場合は代表者として申請された者。以下同じ）の氏名、連絡先（郵便番号、住所、電話番号、メールアドレス）

(2) 表紙の次のページには、次の内容を記載するものとする。

(a) 主題（タイトル）および副題（サブタイトル）(日本語)

(b) 著者全員の氏名（日本語)

(c) 要旨（日本語。800字以内)

(d) キーワード（日本語。5-10個)

(e) 主題（タイトル）および副題（サブタイトル）(英語)

(f) 著者全員の氏名（英語)

(g) 要旨（英語。250語以内)

(h) キーワード（英語。5-10個)

4. 【節・項のナンバリング】

節・項のナンバリングは、次の要領で行うものとする（ローマ数字の使用および数字のない節・項を設けてはならない）。

1.　＊＊＊＊
2.　＊＊＊＊
2.1.　＊＊＊＊
2.1.1.　＊＊＊＊
2.1.2.　＊＊＊＊
2.2.　＊＊＊＊
3.　＊＊＊＊

5. 【日本語論文の文章表記】

(1)　日本語論文では、原則として、新仮名遣い、新字体を使用するものとする。

(2)　日本語論文では、原則として、当用漢字を中心とし、難しい漢字の使用は避けるものとする。

(3)　日本語論文では、句点（。）および読点（、）を併用するものとし、原則として、ピリオド（.）およびカンマ（,）は使用しない。

(4)　日本語論文では、傍点は該当する文字の上に打つものとする。

6. 【日本語論文の数字の表記】

(1)　日本語論文では、原則として、算用数字を使用するものとし、漢数字の使用は熟語、成句および固有名詞の場合にのみ認める。

(2)　上記(1)にかかわらず、概数を表記する場合は、漢数字を使用するものとする（例：数十日、何千人）。

(3)　上記(1)にかかわらず、桁数が大きくなる場合には、必要に応じて単位語（例：兆、億、万）を用いることも認めるが、この場合は、位取りのカンマを使用しない（例：「7万6000人」または「76,000人」は可。「7万6,000人」は不可）。

7. 【数式等の表記】

(1)　変数は、イタリック（斜体）で表示するものとする（例：x、y、z）。

(2)　ベクトルは、ゴシック体かつ太字で表示するものとする（例：$\mathbf{A}$、$\mathbf{B}$、$\mathbf{C}$）。

8. 【図表】

(1) 図表を挿入する場合、図表の上に図表番号およびタイトルを付けるものとする。なお、図表番号は、投稿論文全体の通し番号とし、節ごとに振り直してはならない（例：「図表10」は可。「図表1.3」は不可）。

(2)　図表は、原稿の適切な箇所に配置しておくことが望ましい。また、図表を本文と別のページに一括して作成する場合には、刷り上がりを考慮して挿入箇所を明記しなければならない。

(3)　他の文献の図表を参照する場合は、図表の下に出所を明記するものとする。なお、出所の記載方法は、原則として、下記9.【注・参考文献】に準拠するものとする。また、この場合、当該図表についての著作権に関する問題は、著者の責任において、原稿の投稿前に処理しておくものとする。

9. 【注・参考文献】

(1) 本文中で引用箇所を表示する必要がある場合、引用文献の著者名、発表年および引用ページ（省略可）を記載するものとする（例：大隈（1992：74））。

(2) 引用箇所は、本文中で表示するものとする。

(a) 引用箇所は、両括弧によって表示するものとする。

(b) 括弧内には、引用文献の著者名（名字のみ）、発行年（西暦）および引用ページ（省略可）を次の要領で記載するものとする。

例：	① 引用文献が単数の場合	（大隈_1994：36）
	② 引用文献が複数の場合	（大隈_1997：52；高田_1999：13）

※下線（_）は半角スペース

(c) 同一著者が同一年に複数の文献を公表している場合は、発行年の後にa、b、…のアルファベットを付して、本文中および文末の参考文献において区別するものとする。

例：＜本文中＞　（大隈_1998b：20）
＜文末：参考文献＞　大隈重信（1998a）「＊＊＊＊＊」……
大隈重信（1998b）「※※※」……

(3) 内容注は、本文末にまとめて表示するものとする。

(a) 内容注の番号は、該当箇所の右肩に両括弧によって表示するものとする（例：…である(1)）。

(b) 内容注のなかに引用箇所を表示する必要がある場合には、上記(1)に準拠して表示するものとする。

(4) 参考文献は、内容注の次に、著者氏名のアルファベット順に表示するものとする。

(a) 参考文献が単行本の場合、原則として、参考文献の著者名（個人の場合はフルネーム、団体の場合は省略名称不可）、発行年（西暦。両括弧で囲う）、書名（副題を含む。和書、韓国語文献または中国語文献の場合は二重カギ括弧で囲い、欧文文献の場合はイタリック（斜体）とする）、版数（必要な場合）、発行地（東京の場合は省略可）および発行所を次の要領で記載するものとする。

例：① 参考文献が和文献、韓国語文献または中国語文献の場合
武井寿（1997）.『解釈的マーケティング研究』第3版_東京：白桃書房.
② 参考文献が欧文文献の場合
Sunder, S. (1997). *Theory of Accounting and Control*. South-Western College Publishing.
③ 参考文献が欧文文献で、日本語訳が存在する場合
Littleton, A. C. (1933). *Accounting Evolution To 1900*. New York: American Institute Publishing Press.（片野一郎訳（1978）『リトルトン会計発達史（増補版）』東京：同文舘出版）.

※なお、原著出版年の後には原則として「.」（ピリオド）を打つものとするが、これに代えて「,」を用いてもかまわない。

(b) 参考文献が論文の場合、原則として、参考文献の著者名（個人の場合はフルネーム、団体の場合は省略名称不可）、発行年（西暦。両括弧で囲う）、論文名（副題を含む。和書、韓国語文献または中国語文献の場合はカギ括弧で囲う）、収録書物の著者名もしくは編者名および収録書物名（和書または中国語文献の場合は二重カギ括弧で囲い、欧文文献の場合はイタリック（斜体）とする）、または、収録学術雑誌名、巻号数ならびに該当論文の開始ページおよび終了ページを次の要領で記載するものとする。

例：① 参考文献が和文献、韓国語文献または中国語文献で、所収論文の場合
奥村雅史（2001）.「クロスボーダーM&Aと国際化戦略」薄井彰編著『バリュー経営のM&A投資』東京：中央経済社：113-134.
② 参考文献が和文献、韓国語文献または中国語文献で、雑誌論文の場合
辻山栄子（2003）.「業績報告をめぐる国際的動向と会計研究の課題」『会計』163(2)：223-240.
③ 参考文献が欧文文献で、所収論文の場合
Ikeo, A.（2000）. Economists and Economic Policies. in Ikeo, A. ed. *Japanese Economics and Economists since 1945*. London：Routledge：143-184.
④ 参考文献が欧文文献で、雑誌論文の場合
Sasaki, H. and Toda, M.(1996). Two-Sided Matching Problems with Externalities. *Journal of Economic Theory*. 70(1)：93-108.

(c) 参考文献が新聞または一般雑誌の記事である場合は、次のように表示するものとする。
① 署名記事の場合：学術文献と同様に表示するものとする。
② 無署名、匿名記事の場合：本文中に新聞または一般雑誌のタイトル、発行日付および号数（必要な場合）を可能な限り表示するものとする。

(d) 上記(c)にかかわらず、新聞または一般雑誌の記事を引用した場合は、学術文献のリストの後に、新聞または一般雑誌のタイトル、発行日付および号数（必要な場合）を表示するものとする。

(e) 参考文献がインターネット上の記事である場合には、学術文献と同様に、管理機関名、記事のタイトル（必要な場合）を表示し、また当該ファイルが存在するページのURLを括弧書きで表示するものとする（例：法務省法制審議会会社法（現代化）部会. 2005. 『第32回会議議事録』（http://www.moj.go.jp/SHINGI/041208-1.html））。また、学術文献および新聞または一般雑誌のリストの後に、管理機関名のホームページのURLを表示するものとする（例：法務省ウェブサイト（http://www.moj.go.jp/））。

以上

早稲田大学 産業経営研究所 所報 No.60

2021 年 6 月 1 日発行

発行者　早稲田大学 産業経営研究所所長　高瀬　浩一
発行所　早稲田大学 産業経営研究所
〒169-8050　東京都新宿区西早稲田 1-6-1
電話(03)3203-9857
FAX(03)3203-4247
E-mail riba@list.waseda.jp
URL https://www.waseda.jp/fcom/riba
印刷所　株式会社 正文社